平成26年度
秋田大学地域創生センター年報

Center for Regional Development

目次　contents

秋田大学地域創生センターの概要 2

センター長あいさつ
秋田大学地域創生センター　センター長　川東　雅樹 3

平成２６年度の活動実績

１．地域協働部門
地域協働部門長あいさつ
秋田大学地域創生センター准教授・地域協働部門長　濱田　純 6
１．１　公開講座 7
１．２　自治体連携関係 10
１．３　大学見学受入 13
１．４　地域創生センター主催 21
１．５　他部局主催（年度計画推進経費による） 26
１．６　その他 34

２．地域防災部門
地域防災部門長あいさつ
秋田大学地域創生センター教授・地域防災部門長　水田　敏彦 36
２．１　秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究 37
２．２　防災について地域で活動できる人材の育成 43
２．３　県および市町村への防災施策に関する指導・助言 49

参考資料
平成 26 年度事業実施状況一覧 52
地域創生センター運営委員・地域創生課職員一覧 57
平成 26 年度社会貢献事業ポスター（一部） 58

※横手分校，北秋田分校，男鹿なまはげ分校，COC事業の各事業報告は別刷り報告書となっております。
個別に配布ご希望の方は下記までご連絡ください。
＜横手分校，北秋田分校，男鹿なまはげ分校＞　　秋田大学地域創生課　018-889-2270
＜COC 事業＞　　秋田大学地域創生センターCOC 事務局　018-889-3173

地域創生センター概要

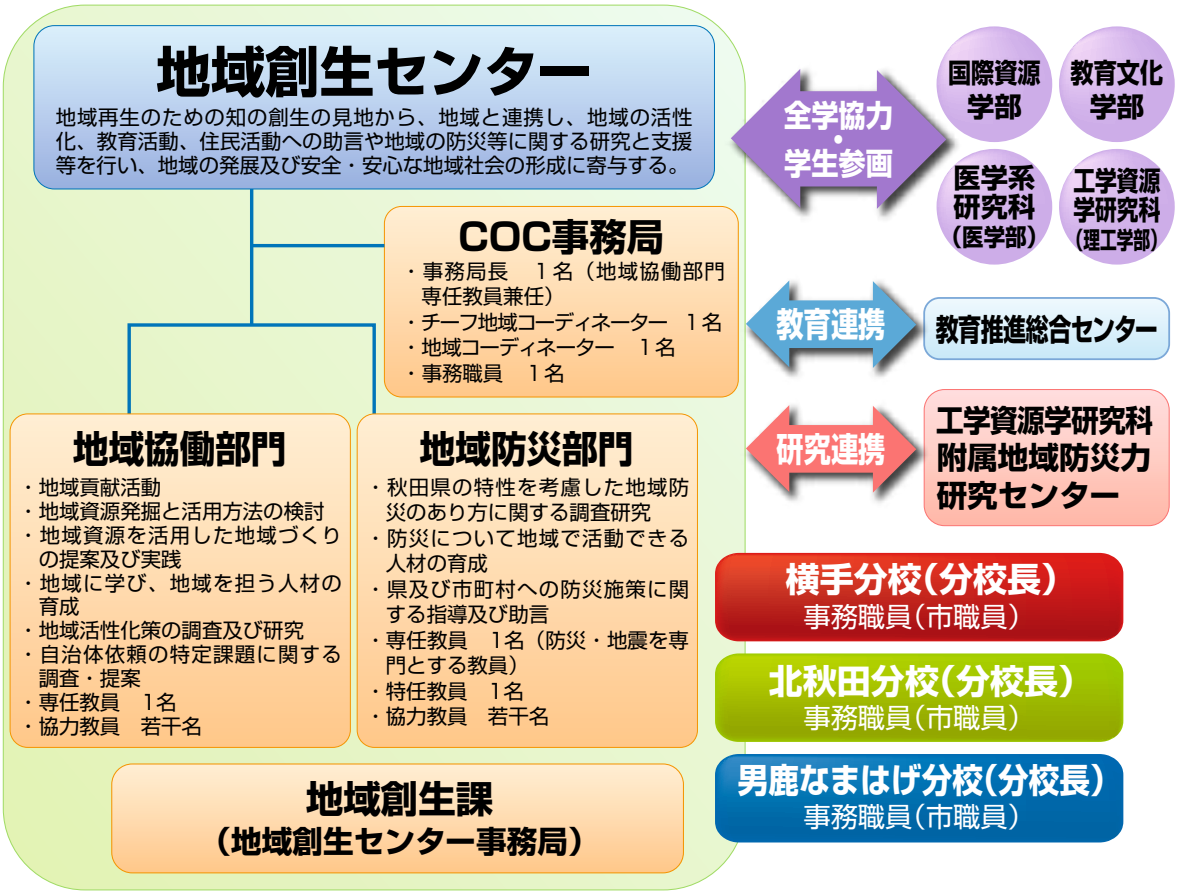
■設置目的

本センターは、地域と連携し、地域の活性化、教育活動、住民活動への助言等を行い、地域資源の発掘、地域づくりを担う人材の育成等を行うことを目的として設置が検討され、以下の沿革に示すとおり平成 23 年 4 月に設置された新しい組織である。

本センターは、秋田大学の社会貢献活動の拠点となるとともに、同年 9 月には地域防災部門を設置し、地域貢献・地域連携に止まらず、地域防災に関する人材育成や自治体の防災施策に関する指導・助言を行うことも目的としている。

■沿　　革

平成 23 年　2 月	教育研究評議会において学内措置としてセンターの設置が了承
平成 23 年　4 月	センター発足　地域協働部門に専任教員（教授）1 名採用 大学本部棟に地域創生課を置き、センター長（兼任）、副センター長（地域協働部門専任教員）の体制でスタート
平成 23 年　9 月	秋田県からの寄附を原資として地域防災部門が設置され、専任教員（准教授）1 名採用　VBL 内に研究室を借用
平成 23 年 10 月	地域防災部門に専任教員（准教授）1 名採用 VBL 内に研究室を借用
平成 24 年　7 月	地域防災部門の研究室を教育文化学部 3 号館 111 室に移動
平成 25 年 10 月	文部科学省 地（知）の拠点整備事業（COC 事業）採択により事務局設置
平成 27 年　3 月	東北専門新聞連盟の「第 14 回『地域づくり』社会活動顕彰」を受ける



センター長あいさつ

地域創生センター　センター長
川　東　雅　樹
（教育文化学部・教授）

平成 26 年度の地域創生センターの活動を本年報でご報告します。

地域創生センターの目的は、地域と連携し、その教育・文化活動を支援することによって、地域コミュニティ活性化の一助となるとともに、地域の生活と安全を守る助言し、地域を持続させる人材を育成するところにあります。

この目的を果たすために「地域協働部門」ならびに「地域防災部門」がそれぞれ年度計画に沿って、公開講座、講演会、大学見学、イベント、地域行事学生協力、講師派遣などの多種多様の事業を実施しております。25 年 9 月から男鹿なまはげ分校が活動を開始し、26 年度はこれまでの北秋田分校、横手分校とは違った方面での地域からの要望にも応えていこうとしています。またそれとは別に、地（知）の拠点整備事業（ＣＯＣ事業）が 2 年目を迎え、掲げられた三つのテーマの成果の達成をめざして、いよいよ本格的な調査研究とに取り組んでいるところであります。

本来、大学の地域への貢献は、自治体、行政の遂行する施策とは本質的に異なります。いうまでもなく行政には地域の福祉と利益をはかるという任務のために，小さからぬ権限と財源が与えられ，同時にまた堅実な結果をだすという責任が課されています。大学の立ち位置は別のところにあります。

昨今にわかに、大学の地域貢献がこれまでになく求められるようになり、文科省の要請する三つに区分された大学の機能のひとつにも「地域活性化の中核的拠点」が掲げられています。しかしながらここでいう地域活性化とは、地域の諸課題を自治体同様に当事者としてその解決に当たるというものではないでしょう。大学はいい意味で第三者たらざるを得ないと考えます。

大学は地域に対して指示、指令を出すところではなく、自由な思考のもとにアイデアとモデルを工夫し、現実に対して可能なるものを提案するという立場であって、その提案を判断し、実行に移すのはあくまでも自立した地域でなければなりません。現代の日本はあらゆる意味において余裕を失いつつあるせいか、即効的に見える事業と時間的な成熟を顧慮しない変わり身の早さばかりがスポットを浴びる風潮が見られますが、もともと大学の得意とするところは遠くを見ることであり、したがって大学の考案するものが必ずしも地域の喫緊の要望に応えるものでないことは十分ありえます。

今、地域に必要なのはおそらく施策や計画をそのまま受け入れる姿勢ではなく、それをみずからの現実感覚で研ぎ直し、提案者に投げ返す力であり、お仕着せのプランをはね返すくらいの気骨かもしれません。だとすれば、大学は地域に寄り添いつつ，まったく意想外の視点から地域を挑発する存在であるべきだと考えられます。そしてそれに加えて、地域をフィールドとして学びを深め、現状を自分のこととして体験し、いずれ地域を舞台に活動することになる学生を育てて送り出すという、長期的視野に立った貢献こそめざすべきものでしょう。

結果として、地域に大学があるというステイタスと安心感、大学があって良かった、と地域の人たちに感じてもらえるように，今後も地道に励んでまいります。

地域協働部門

地域協働部門長あいさつ

地域創生センター　准教授・地域協働部門長
濱　田　　純

秋田県を始めとする少子・高齢化地域社会では、地域産業の衰退、コミュニティ機能の減退、行政サービスの後退、共同消費手段の消失等が顕著になり、地域社会が次第に沈滞・疲弊していく状況にあります。人口減に歯止めを掛け、地域のなかで安心して暮らせるしくみを創るための、生活の維持と向上が喫緊の課題となっております。

こうした状況のなか、昨年の 11 月に「まち、ひと、しごと創生法」が成立し、全国の自治体においては、人口減少克服のための「人口ビジョン」・「総合戦略」の作成が急ピッチで進められております。しかし作成を急ぐあまり、単に人口減少にストップを掛ける試みに留まることなく、現在の地域社会を住民の協住と定住の空間として再構築すること、すなわち、将来どのような地域を創出するべきか、またすることができるかを、具体的に提起することが大事になります。

分断され続ける個人や個々の家族にとって、自分たちで解決しなければならない生活課題が益々増大するなかで、安心した暮らしを持続可能にさせるために、それらへの対応のしくみが模索されなければなりません。

そのためには、大学が取りうる方法としては

① 住民による地域再生プロジェクトの立ち上げと実践を行政と住民との協働で行い、地域の実情に応じた再生プロセスのモデルを構築すること、

② 地域資源を活用した地域産業の振興、集落機能の持続的な補完システム、新たなコミュニティ活動の形成、住民組織の再編成がどのようにすれば可能かを提示し、新たな地域社会の構築に貢献すること

などが考えられます。いわば大学は、外部者（中間者）の役割を果たすことによって、住民の地域課題解決への意欲の結集を図り、より組織的にまた効率的に地域の再生に寄与することができると考えます。

地域が自立的に自分たちの地域を再構築するためには、住民の地域課題解決への意欲、合意、実践が不可欠です。大学には外部者（中間者）として、しかし当事者意識を持って、地域における新たな生活の展望と提案、合意形成、地域運動への誘いをつくることが求められています。

こうしたなか、本学は文部科学省平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」に採択され、地域再生・活性化の拠点となる整備を具体的に進める環境が整いました。現在、地域協働部門における事業の一層の効果的展開が進行中です。

１．１　公開講座

開　講　数：６講座
総受講者数：２８２名

●事業内容

地域に開かれた大学づくりの一環として、秋田大学の持つ教育資源を広く市井に向けて提供することを目的に実施している。

●事業成果と課題

新設の国際資源学部が企画した講座は、男鹿半島でのフィールドワークを交えた実践型の内容により好評を博した。

このように秋田大学の強みや特徴を生かすこと、さらには秋田という地をテーマとした講座を開設することで，本学ならではの色を出していきたい。

実施講座

（１）サイコロジカル・カフェ

実 施 日　平成 26 年 6 月 3 日（火）～平成 26 年 7 月 8 日（火）　全 7 回
会　　場　カレッジプラザ
担当講師　秋田大学教育文化学部心理学領域担当教員7名
第1回　こども発達・特別支援講座　教授　髙田知惠子
第2回　地域社会講座　教授　柴田健
第3回　こども発達・特別支援講座　教授　森和彦
第4回　こども発達・特別支援講座　准教授　中野良樹
第5回　地域社会講座　准教授　宮野素子
第6回　地域社会講座　准教授　北島正人
第7回　こども発達・特別支援講座　准教授　清水貴裕
受講者数　のべ 141 名

心理学系教員 7 名がオムニバス形式で、最近の心理学の知見、研究、実験や技法について実演や実習を交えて紹介した。

（２）北イングランドの文化　ーマンチェスターを中心にー

実 施 日　平成 26 年 6 月 19 日（木）～7 月 17 日（木）　全 5 回
会　　場　カレッジプラザ
担当講師　秋田大学教育文化学部人間文化講座　准教授　大西洋一
受講者数　28 名

北イングランドの代表都市であるマンチェスターに焦点を当て、工業や演劇、音楽など様々な視点からその文化を捉えた。

（３）女性教員と優しく学ぶ認知症講座

～対応方法・地域での取り組み・予防についてのヒント～

実 施 日　平成 26 年 10 月 1 日（水）～10 月 22 日（水）　全 4 回
会　　場　カレッジプラザ
担当講師　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻教員 4 名
第1回　臨床看護学講座　助教　猪股祥子
第2回　地域・老年看護学講座　助教　藤田智恵
第3回　地域・老年看護学講座　講師　長岡真希子
第4回　作業療法学講座　助教　津軽谷恵
受講者数　40 名

認知症とはどのような状態か、その対応方法にはどのようなものがあるか等について、医学的治療の観点ではなく、地域における取り組みに主眼を置いて解説した。

（４）地球を調べ、資源を考える　－地層の観察から秋田の昔を探る－

実 施 日　平成 26 年 10 月 11 日（土）　座学と野外観察の全 2 回
会　　場　秋田大学国際資源学部棟、男鹿半島各地
担当講師　秋田大学国際資源学部
学部長・資源地球科学コース　教授　佐藤時幸
資源地球科学コース　准教授　山﨑誠
受講者数　22 名

秋田大学内での座学の後、男鹿半島へ出かけて地層を観察することにより、日本列島の形成過程や秋田に地下資源が豊富な理由について理解を深めた。

（５）描かれた女性　－近代日本画とルネサンス絵画にみる－

実 施 日　平成 26 年 10 月 30 日（木）～12 月 4 日（木）　全 6 回
会　　場　カレッジプラザ
担当講師　第 1～3 回　秋田大学教育文化学部教育実践講座
准教授　猪巻明
第 4～6回　秋田大学教育文化学部人間文化講座
准教授　佐々木千佳
受講者数　27 名

前半は近代日本画、後半はルネサンス期絵画をテーマに取り上げ、絵画の「女性」が、当時のどのような社会背景のもとで描かれてきたかを解説した。

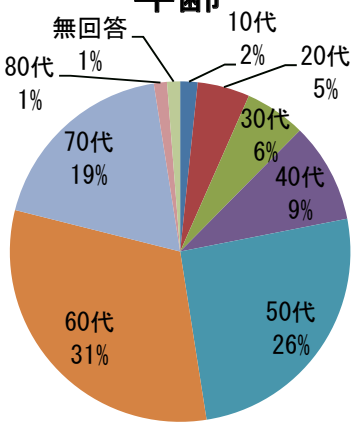
（６）シニアのための発声法と歌唱法　～楽しく元気になれる声の出し方と歌い方～

実 施 日　平成 26 年 11 月 30 日（日）～12 月 21 日（日）　全 4 回
会　　場　秋田大学インフォメーションセンター
秋田大学 60 周年記念ホール
担当講師　秋田大学教育文化学部教育実践講座
准教授　爲我井壽一
受講者数　24 名

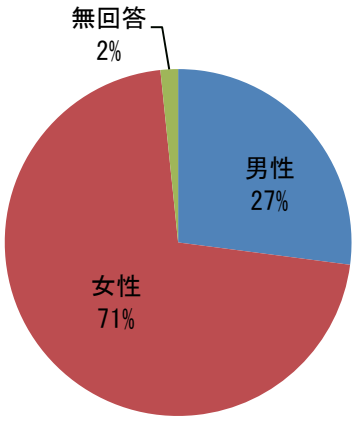
受講対象者は 60 歳以上の方。発声法と歌唱法を実践的に学ぶことはもとより、歌うことを通して人生を楽しく元気に生きていただこうとの目的で開催した。

公開講座　アンケート集計結果

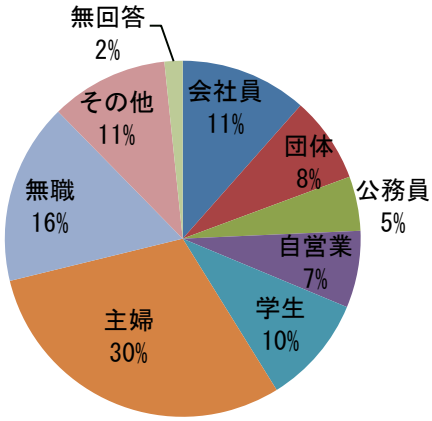
年齢



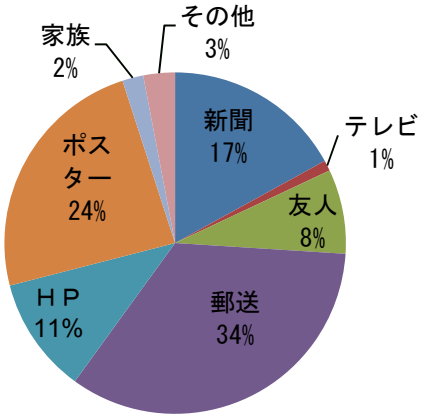
性別



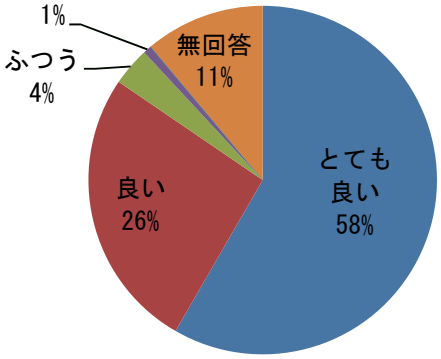
職業



何で知ったか



内容・方法



公開講座総受講者数　282 名
アンケート回答者数　243 名
（回収率 86.2%）

■受講者の声（抜粋）

・先生の若さあふれるお話は、大変解りやすく、いかにも大学生にもどった様で心踊るものがありました。
「北イングランドの文化　ーマンチェスターを中心にー」より

・新生国際資源学部の教授陣に接することができ収穫でした。地下資源や地質から多くの事が推測できることが新鮮でした。お天気に恵まれ何よりでした。
「地球を調べ、資源を考える　ー地層の観察から秋田の昔を探るー」より

・大学の講座に参加させて頂くことが出来改めてこれからの絵画鑑賞のための奥深さやその時代の背景を知ることができてとても感銘をうけました。また機会があれば様々な専門分野の先生方の講義に参加させて下さい。ありがとうございました。
「描かれた女性　―近代日本画とルネサンス絵画にみる―」より

■アンケート分析

受講者は 60 代以上が半数を超えていること、主婦や無職の方が多いことから、時間的な融通が可能な方々の受講が多いことが分かる。また、女性の割合が多くなっている。

周知方法では、過去受講経験者への郵送のほか、公共機関等へ送付しているポスターが多くの方の目に触れているようである。次いで、割合は多くないながら、新聞で記事に取り上げられることも有効な広報手段と考えられるため、今後も地道に各報道機関へ向けて講座の情報を周知していきたい。

内容・方法については，概ね良い評価を得ている。だがアンケートにおける自由記述欄を見ると「時間が足りない」、「資料が見づらい」、「部屋が寒い」など運営面への指摘が散見されることから、今後は細かい部分まで配慮した講座運営を心がけていく。

１．２　自治体連携関係

事業を実施した自治体：北秋田市，男鹿市，潟上市，仙北市，美郷町，横手市，東成瀬村

●事業内容

秋田大学は「地域に根ざした大学」を目指し、連携協定を結ぶ県内の自治体において、様々な社会貢献活動を展開している。

●事業成果と課題

9月26日に東成瀬村、11月26日に仙北市と連携協定を結んだことにより、県内自治体との連携協定数は計15となった（県も含む）。

これからは、教員や学生が地域に入り込むことにより住民の意識を刺激することはもちろん、学生にとっても地域の現状を理解し、問題意識を持つための教育的機会となるようなプログラムづくりを行っていきたい。

実施事業

（１）秋田大学と美郷町との連携事業

「秋田大学生による美郷中学校勉強合宿での学習指導」

実 施 日　平成 26 年 8 月 19 日（火）
会　　場　秋田県立岩城少年自然の家
参加学生　10 名

連携協定を結んでいる美郷町との連携事業の一つとして、美郷中学校 3 年生が行う勉強合宿へ秋田大学生が参加し、生徒約 130 名へ学習指導を行った。

学生は教科ごとのグループに分かれて配置についた。問題につまずいている生徒を見つけては、積極的に声をかけて解法のヒントを与え、終盤には生徒からも進んで手が挙がるようになった。学習終了後の「お別れの会」では、学生が生徒たちに勉強法や進路決定のアドバイスをする場面が見られた。

参加学生の多くは教員志望であり、教育実習以外で現場の空気に触れることができる貴重な機会となったようだった。

（２）秋田大学と東成瀬村との連携協定締結式及び記念講演会

実 施 日　平成 26 年 9 月 26 日（金）
会　　場　東成瀬村役場、東成瀬村立東成瀬中学校
担当講師　秋田大学客員教授　西木正明　氏

秋田大学と東成瀬村が有するそれぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とした連携協定を締結した。

あわせてこれを記念した講演会を東成瀬中学校で開催し、同校の生徒や教員など100名が聴講した。講師の西木正明氏は「世界へはばたけ東成瀬の子供たち」というテーマで講演。村ならではの文化を意識し、自慢できるくらいに育てることが若い世代の大事な役目だと訴えた。質疑応答では、生徒からの「夢の実現に必要なことは何か。」という問いに対し、「壁にぶつかっても、とにかくがむしゃらに取り組み続けることが道を拓く方法である。」と、自身の経験も交えながら答えた。

（３）秋田大学地域交流朝市

実 施 日　平成 26 年 10 月 11 日（土）
会　　場　秋田大学インフォメーションセンター前広場
協力自治体　5自治体（北秋田市、男鹿市、潟上市、美郷町、横手市）

秋田大学が連携協定を締結している 15 自治体のうち 5 自治体の協力を得て実施。各自治体の名産品や特産品を販売することで、大学と自治体との連携を深めるとともに、近隣住民が秋田大学へ気軽に足を運ぶ機会を設けることを目的とした事業である。

朝 9 時の開会前から多くの住民が訪れ、販売開始後は終了時間を待たずに商品が売り切れる自治体も見られるほどの盛況だった。本事業へは秋田大学生も多く参加し、秋田大学混声合唱団「A.choir（エース・クワイア）」が開会式で合唱を披露し場を彩ったほか、10 名の学生が「地域協力サポーター」として、事前に自治体へ伺って学んできた製品知識を活かしながら販売を手助けした。

（４）秋田大学と美郷町との連携事業
「秋田大学音楽教育研究室学生による特別コンサート」

実 施 日　平成 26 年 10 月 25 日（土）
会　　場　美郷町公民館ホール
担　　当　秋田大学教育文化学部教育実践講座　准教授　爲我井壽一
　　秋田大学音楽教育研究室　学生 22 名

秋田大学は美郷町と「水」をテーマに連携協定を結んでいる。このコンサートは連携事業の一環として、同町のイベント「美郷フェスタ」の中で実施したもので、秋田大学生が美郷町で演奏するのは、平成 24 年度に美郷中学校合唱祭へゲストとして招かれ「水のコンサート」を開催してから 3 年目となる。

学生は来場した約 250 名の町民を前に、ピアノや声楽、フルート、トランペットの美しい演奏と、「水」を意識した楽曲「君と見た海」の合唱などアンコールもあわせて計 9 曲を披露し、イベントの活性化に貢献した。

（５）秋田大学と仙北市との連携協定締結式及び記念行事

実 施 日　平成 26 年 11 月 26 日（水）
会　　場　仙北市役所田沢湖庁舎、仙北市田沢湖総合開発センター
担当講師　秋田大学国際資源学部資源開発環境コース　教授　石山大三

秋田大学内に「田沢湖湖底研究所」が設置されたことを受け、秋田大学と仙北市は互いの協力関係をさらに深めていくことを目的とした連携協定を締結した。

締結式の後は記念行事として、秋田大学ニューブラスアンサンブルメンバー8名による「秋田県民歌」など5曲の演奏と、上述の湖底研究所の所長である石山教授による講演とが行われた。石山教授は「玉川水系の河川水の特徴」と題し、酸性の水溶液をpH1単位希釈する実験を交えながら、玉川の水質の特徴やその水が流れ込む田沢湖の水質改善について解説。市民からは「田沢湖の実態が理解出来た。」といった声が聞かれた。

（６）４大学連携協力事業「横手市山内三又地区雪中運動会」への参加

実 施 日　平成 27 年 2 月 22 日（日）
会　　場　横手市山内三又地区　旧三又小学校グラウンド、三又コミュニティセンター
参加学生　秋田大学11名、秋田県立大学1名、国際教養大学5名、秋田公立美術大学5名　計22名

秋田大学・秋田県立大学・国際教養大学・秋田公立美術大学は、平成26年度4月1日に4大学間の連携協定を締結した。この連携事業の一環として、各大学の学生が横手市山内三又地区で実施された「雪中運動会」へ参加することで、地元住民と触れ合いながら地域の現状を学ぶとともに、他大学の学生との交流を通じて相互理解を深めた。

学生たちはそりに子どもを乗せて走る「馬力競争」など各種のユニークな競技へ参加し、場を盛り上げた。

（７）荒川鉱山跡地歴史保存活用事業

担　　当　秋田大学国際資源学部資源開発環境コース　教授　今井忠男（秋田鉱業史研究所長）
資源地球科学コース　教授　大場司
資源地球科学コース　講師　西川治
技術専門員　千田恵吾
秋田大学地域創生センター　地域協働部門長　濱田純
秋田大学地域創生課

平成26年3月に締結した「大仙市と国立大学法人秋田大学との荒川鉱山跡地の活用に関する覚書」に基づき、荒川鉱山跡地を産業遺産として活用する協議を開始した。はじめに8月に検討ワーキングを立ち上げて、最優先課題として選鉱場遺跡を文化財登録することとした。その後大仙市協和支所との協働により、3次元測量を行うため現地にて中央選鉱場やシックナー跡、煙突、嗽沢坑口跡等の遺跡調査を開始した。

平成27年3月には「荒川の鉱山誌」発掘プロジェクトを策定し、第1弾「航空測量による荒川鉱山の選鉱場遺構の3次元デジタルアーカイブ化」のため、雪解けとともに無人ヘリコプター（ドローン）による遺構の空撮を行うこととした。

4月には大仙市協和荒川の大盛館にて学習見学会を開催し、共同プロジェクトの公開とともに空撮の見学を行うことが決定した。

１．３　大学見学受入

受入団体数　３４団体
総見学者数　８５６人

●事業内容

大学という機関を知り、興味を深めてもらうことを目的に、中学校の「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育や、一般団体の大学見学など、各種ニーズに応じて秋田大学への訪問を受け入れている。

●事業成果と課題

見学団体数は年々増加しており、中学校からの見学が全体の 9 割を占めている。本事業が秋田県内各中学校に浸透しつつあることがうかがわれる。

見学内容を団体側の要望に添うよう調整し好評を得ていることから、引き続ききめ細かに対応していきたい。

見学団体数の増加に伴い、秋田大学生を案内役に活用するといった受入体制の工夫が課題となりつつある。

実施事業

（１）能代市立常磐中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 7 日(水)
内　　容　手形キャンパス内見学、研究室見学・模擬体験
対 応 者　工学資源学研究科　教授　寺境光俊
　　地域創生課職員
人　　数　3 名(2 年生)

（２）能代市立能代南中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 8 日(木)
内　　容　手形キャンパス内見学、研究室・授業見学、大学 4 年生による模擬授業
対 応 者　教育文化学部　教授　川村教一
　　教育文化学部　教授　笠原幸生
　　地域創生課職員
人　　数　4 名(2 年生)

（３）能代市立能代第二中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 9 日(金)
内　　容　研究室見学、模擬体験、授業見学、
　　手形キャンパス内見学
対 応 者　教育文化学部　教授　柴田健
　　教育文化学部　准教授　若有保彦
　　地域創生課職員
人　　数　4 名(2 年生)

（４）能代市立東雲中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 14 日(水)、15 日(木)
内　　容　研究室見学、附属鉱業博物館見学、
　　職場体験、手形キャンパス内見学
対 応 者　工学資源学研究科　准教授　菅原佳城
　　附属鉱業博物館　サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　のべ 27 名(2 年生)

（５）大館市立田代中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 21 日(水)
内　　容　大学 4 年生による卒論ゼミ見学・質疑応答、教員との懇談
対 応 者　教育文化学部　教授　佐々木雅子
　　教育文化学部　准教授　石井宏一
人　　数　4 名(2 年生)

（６）秋田県立由利高等学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 22 日(木)、10 月 2 日(水)
内　　容　大学の概要説明、講義、課題研究
対 応 者　工学資源学研究科　教授　久保田広志
　　工学資源学研究科　准教授　小林真人
　　工学資源学研究科　講師　和田豊
　　工学資源学研究科　講師　小笠原正剛
　　工学資源学研究科　講師　松本和也
　　工学資源学研究科　助教　芳賀一寿
人　　数　のべ 68 名(2 年生)

（７）大館市立下川沿中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 22 日(木)
内　　容　手形キャンパス内見学、質疑応答、授業見学
対 応 者　総合情報処理センター　准教授　吉崎弘一
　　工学資源学研究科　非常勤講師　早坂匡
　　地域創生課職員
人　　数　2 名(2 年生)

（８）秋田市立太平中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 22 日(木)
内　　容　天文台見学、質疑応答
対 応 者　教育文化学部技術部基礎技術係　技術長　毛利春治
人　　数　3 名(2 年生)

（９）能代市立能代第一中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 27 日(火)
内　　容　研究室見学、質疑応答、授業見学
対 応 者　教育文化学部　教授　川東雅樹
　　工学資源学研究科　教授　田子真
　　地域創生課職員
人　　数　2 名(2 年生)

(10) 大仙市立大曲中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 29 日(木)
内　　容　附属図書館見学、授業見学、附属鉱業博物館
対 応 者　附属図書館職員
　　教育文化学部　准教授　佐藤猛
　　地域創生課職員
人　　数　46 名(3 年生)

(11) 北秋田市立合川中学校

実 施 日　平成 26 年 5 月 29 日(木)
内　　容　授業見学、研究室訪問＆インタビュー、手形キャンパス内見学
対 応 者　教育文化学部　准教授　辻野稔哉
　　工学資源学研究科　講師　小笠原正剛
　　地域創生課職員
人　　数　2 名(2 年生)

(12) 秋田市立城南中学校

実 施 日　平成 26 年 7 月 1 日(火)
内　　容　質疑応答、手形キャンパス内見学
対 応 者　地域創生課職員
人　　数　6 名(2 年生)

(13) 大仙市立西仙北中学校

実 施 日　平成 26 年 7 月 2 日(水)
内　　容　授業見学、手形キャンパス内見学
対 応 者　地域創生センター　教授　水田敏彦
　　地域創生課職員
人　　数　50 名(3 年生)

(14) 秋田県立大館鳳鳴高等学校

実 施 日　平成 26 年 7 月 8 日(火)、10 月 18 日（土）
内　　容　SSH 研究室訪問
対 応 者　7 月 8 日：国際資源学部　准教授　筒井智樹
教育文化学部　教授　宇野力
教育文化学部　准教授　清野秀岳
工学資源学研究科　准教授　山口留美子
10 月 18 日：工学資源学研究科　准教授　加藤純雄
工学資源学研究科　講師　小笠原正剛
人　　数　のべ 34 名(1～2 年生)

(15) 秋田市立明徳小学校

実 施 日　平成 26 年 7 月 9 日(水)
内　　容　手形キャンパス内見学、質疑応答
対 応 者　地域創生課職員
人　　数　10 名(2 年生)

(16) 秋田市立御所野学院中学校

実 施 日　平成 26 年 7 月 17 日(木)
内　　容　天文台見学、VBL 見学、国際資源学部見学
対 応 者　国際資源学部　准教授　千代延俊
教育文化学部技術部基礎技術係　技術長　毛利春治
工学資源学研究科　教授　石尾俊二
人　　数　27 名(3 年生)

(17) 大仙市立大曲南中学校

実 施 日　平成 26 年 7 月 18 日(金)
内　　容　模擬講義、手形キャンパス内見学
対 応 者　国際資源学部　教授　石山大三
地域創生課職員
人　　数　28 名(3 年生)

(18) 大館市教育委員会教育研究所（子どもハローワーク）

実 施 日　平成 26 年 8 月 2 日(土)
内　　容　国際資源学部・保健学科オープンキャンパスの見学と体験
対 応 者　地域創生課職員
人　　数　14 名(小学 5 年生～中学 3 年生)

(19) かんば学童教室

実 施 日　平成 26 年 8 月 5 日(火)
内　　容　天文台見学、質疑応答、手形キャンパス内見学
対 応 者　教育文化学部技術部基礎技術係　技術長　毛利春治
地域創生課職員
人　　数　25 名(小学 1～3 年生)

(20) 秋田大学教育文化学部附属中学校①

実 施 日　平成 26 年 8 月 22 日(金)
内　　容　研究室見学
対 応 者　工学資源学研究科　教授　長縄明大
　　地域創生課職員
人　　数　2 名(小学 2 年生)

(21) 秋田県立秋田北高等学校

実 施 日　平成 26 年 8 月 26 日(火)
内　　容　大学紹介、質疑応答、研究室訪問（講義・実験）
対 応 者　地域創生センター　准教授　濱田純
　　工学資源学研究科　教授　伊藤英晃
　　工学資源学研究科　准教授　山口留美子
　　工学資源学研究科　准教授　山本良之
　　工学資源学研究科　准教授　加藤純雄
　　工学資源学研究科　講師　小笠原正剛
人　　数　37 名(2 年生)

(22) 由利本荘市立西目中学校

実 施 日　平成 26 年 9 月 9 日(火)
内　　容　大学紹介、質疑応答、附属図書館見学、
　　手形キャンパス内見学
対 応 者　地域創生センター　准教授　濱田純
　　附属図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　54 名(1 年生)

(23) 湯沢市立湯沢南中学校

実 施 日　平成 26 年 9 月 10 日(水)
内　　容　手形・本道キャンパス内見学、質疑応答、模擬授業
対 応 者　教育文化学部　教授　宇野力
　　地域創生課職員
人　　数　10 名(2 年生)

(24) 秋田市立御野場中学校

実 施 日　平成 26 年 10 月 8 日(水)
内　　容　手形キャンパス内見学、授業見学、模擬講義
対 応 者　教育文化学部　教授　大橋純一
　　地域創生課職員
人　　数　11 名(1 年生)

(25) 仙北市立生保内中学校

実 施 日　平成 26 年 10 月 23 日(木)
内　　容　附属図書館見学、附属鉱業博物館見学
対 応 者　附属図書館職員
　　附属鉱業博物館　サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　41 名(2 年生)

(26) にかほ市立金浦中学校

実 施 日　平成 26 年 10 月 29 日(水)
内　　容　研究室見学、附属図書館見学、手形キャンパス内見学
対 応 者　国際資源学部　教授　井上亮
　　附属図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　35 名(2 年生)

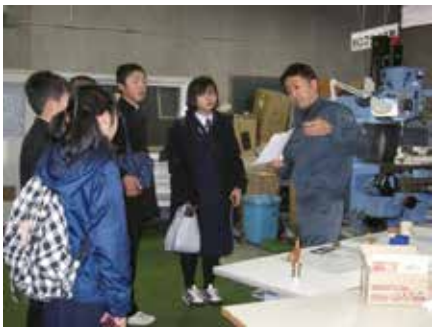
(27) 小坂町立小坂中学校

実 施 日　平成 26 年 10 月 30 日(木)
内　　容　手形キャンパス内見学、模擬授業、附属鉱業博物館見学
対 応 者　国際資源学部　教授　安達毅
　　附属鉱業博物館　サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　47 名(1 年生)

(28) 秋田市立外旭川中学校

実 施 日　平成 26 年 11 月 5 日(水)
内　　容　手形キャンパス内見学、質疑応答
対 応 者　地域創生課職員
人　　数　14 名(2 年生)

(29) 大仙市立仙北中学校



実 施 日　平成 26 年 11 月 13 日(木)
内　　容　授業見学、手形キャンパス内見学
対 応 者　工学資源学研究科　准教授　佐々木芳宏
　　地域創生課職員
人　　数　5 名(1 年生)

(30) 秋田県立秋田北鷹高等学校

実 施 日　平成 26 年 11 月 17 日(月)
内　　容　模擬講義、附属図書館見学、附属鉱業博物館見学
対 応 者　教育文化学部　教授　川村教一
　　教育文化学部　教授　岩田吉弘
　　教育文化学部　教授　池本敦
　　教育文化学部　准教授　石井照久
　　附属鉱業博物館　サイエンスボランティア
人　　数　116 名(1 年生)

(31) 秋田県立横手清陵学院中学校

実 施 日　平成 26 年 12 月 2 日(火)
内　　容　模擬講義、研究室訪問、附属図書館見学
対 応 者　国際資源学部　准教授　千代延俊
　　教育文化学部　教授　村上東
　　教育文化学部　教授　川村教一
　　教育文化学部　准教授　石橋研一
　　教育文化学部　准教授　石井宏一
　　工学資源学研究科　教授　小野田勝
　　工学資源学研究科　教授　河村肇
　　工学資源学研究科　教授　田子真
　　附属図書館職員
　　地域創生課職員
人　　数　64 名(2 年生)

(32) 秋田大学教育文化学部附属中学校②

実 施 日　平成 26 年 12 月 2 日(火)～4 日(木)
内　　容　教員との交流、研究室見学、手形キャンパス内見学、職場体験学習
対 応 者　教育文化学部　准教授　石井照久
　　教育文化学部技術部基礎技術係　技術長　毛利春治
　　附属図書館職員
　　大学生協職員
　　国際課職員
　　附属鉱業博物館　サイエンスボランティア
　　地域創生課職員
人　　数　23 名(1 年生)

(33) 横手市立横手南中学校

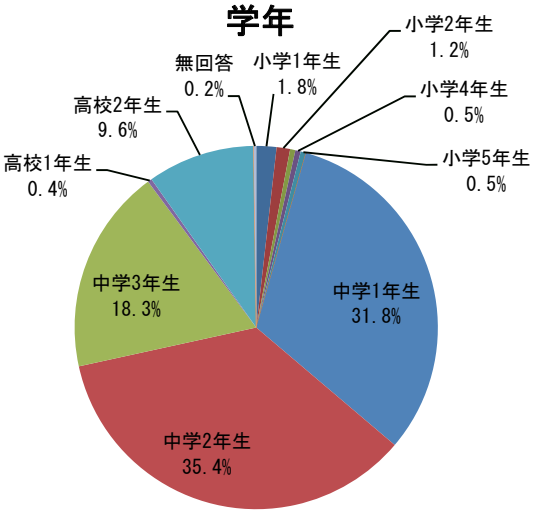
実 施 日　平成 27 年 1 月 7 日(水)
内　　容　研究室訪問
対 応 者　教育文化学部　教授　上田晴彦
　　教育文化学部　准教授　石橋研一
　　教育文化学部　准教授　清野秀岳
　　教育文化学部　准教授　石井照久
　　地域創生課職員
人　　数　7 名(1 年生)

(34) 秋田県立本荘高等学校

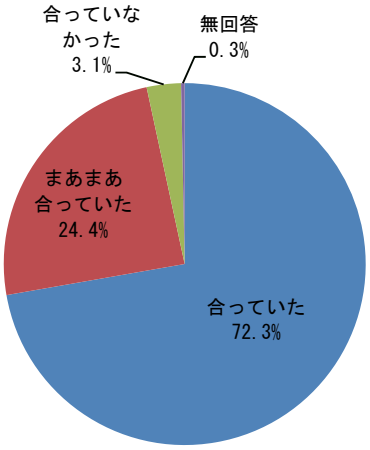
実 施 日　平成 27 年 1 月 8 日(木)
内　　容　大学紹介、質疑応答、研究室訪問（講義・実験）
対 応 者　工学資源学研究科　教授　伊藤英晃
　　工学資源学研究科　准教授　山本良之
　　工学資源学研究科　准教授　山口留美子
　　工学資源学研究科　准教授　田中元志
　　工学資源学研究科　准教授　加藤純雄
　　工学資源学研究科　講師　小笠原正剛
　　地域創生課職員
人　　数　31 名(2 年生)

大学見学受入　アンケート集計結果

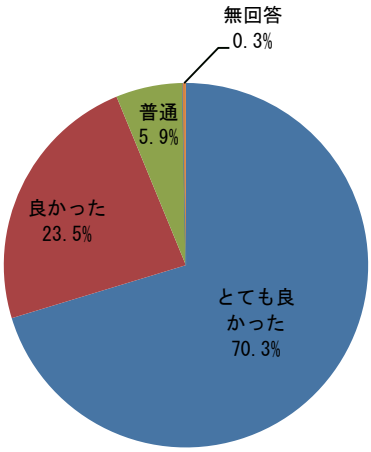
学年



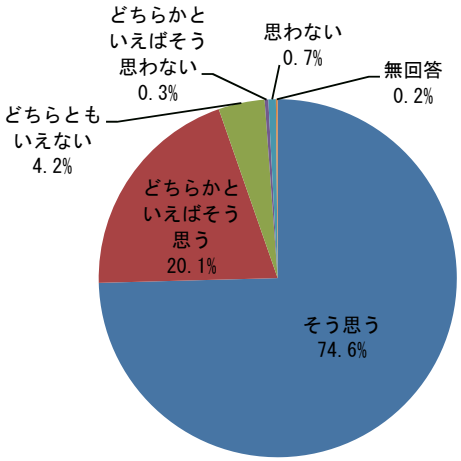
見学目的にあっていたか



内容



大学に対する興味が増したか



公開講座総受講者数　837 名
アンケート回答者数　632 名
（回収率 75.5%）

■見学者の声（抜粋）

・大学を周ったり、授業を見学したりして、中学校と比べて違うところをたくさん知ることができてよかったです。秋田大学のみなさんは、どの人も、明るく接してくれて、とても楽しかったです。
これから将来の夢を持って、やりたいことを見つけていくことをがんばっていきたいです。今回は、本当にありがとうございました。（中学 2 年生）

・普段の生活、授業ではなかなかできない経験ができて、とても良かったです。担当してくださった学生さんや、先生がとてもわかりやすく、楽しく説明してくださりとても学びやすかった。（高校 2 年生）

■アンケート分析

中学生の訪問が大半を占めているが、課題研究や社会科見学の目的で高校生、小学生が訪問するケースもある。

「見学目的にあっていたか」、「内容」、「大学に対する興味が増したか」の各項目はいずれも肯定的意見がほとんどである一方、訪問校数が年々増加してきていることから、各校の希望する内容に沿った見学プログラムを計画することが難しくなってきている。今後は一定の見学コースを設けるなどの工夫が必要になる。

１．４　地域創生センター主催事業

実施事業数：６件

●事業内容

　これまで見てきた各事業のほかにも、地域創生センターが主催して講演会等を実施している。

　中でも、「秋田大学子ども見学デー」は大学の法人化以降毎年度継続して実施しているイベントであり、参加者から好評を得ている。

●事業成果と課題

　「秋田大学子ども見学デー」は広報活動に力を入れた結果、参加希望者が500名を超え、全13コースに275名の参加があり、過去最大の規模となった。

　また、八峰町、潟上市、東成瀬村の3か所で実施した「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」は、各地域の高校生を含む市民など計233名が参加した。質疑応答も含め、2時間という時間が短く感じるほど参加者の関心が高かった。

　今後も学外に秋田大学の持つ知的資源を還元していけるような事業を企画したい。

実施事業

（１）酸素を運搬する細胞「赤血球」を科学する

実 施 日　平成 26 年 5 月 25 日（日）
会　　場　カレッジプラザ
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科生命科学専攻　教授　涌井秀樹
　　秋田大学大学院工学資源学研究科生命科学専攻　准教授　布村渉
　　秋田大学医学部附属病院輸血部　講師　藤島直仁
　　秋田大学医学部附属病院血液内科　助教　鵜生川久美
受講者数　54 名

　県内の高校生を対象に、大学で学ぶ「生命科学」の面白さを感じてもらうことを目的として開催。

　涌井教授の進行のもと、3 名の教員がそれぞれの専門分野から赤血球についての知見を紹介・解説した。始めに講師を務めた布村准教授は、赤血球の働きについて概説。続いて鵜生川助教が自身の研究内容を交えながら「脱核」と呼ばれる現象を紹介した。最後は藤島講師が，高校生にもなじみのある「血液型」をテーマに講義した。

　受講した高校生たちは，大学における学びや研究のイメージを掴むことができたようだった。

（２）秋田大学子ども見学デー　～“頭”と“体”でフル体験～

実 施 日　平成 26 年 8 月 8 日（金）
会　　場　秋田大学
コ ー ス　・国際資源学部（2コース）
　　・教育文化学部（3コース）
　　・医学部（2コース）
　　・工学資源学部（2コース）
　　・総合情報処理センターコース
　　・ベンチャーインキュベーションセンターコース
　　・附属図書館コース
　　・ぐるっとキャンパス一周コース
参加者数　275 名

小・中学生とその保護者を対象として、夏休みの間に大学内の見学や様々な体験を通して、大学に対する関心を深めてもらうことを目的として開催した。平成16年度から継続実施しており、今年度は過去最多の117家族275名が参加した。参加者は60周年記念ホールにて当日のスケジュールや秋田大学の概要について説明を受け、コース毎に学長と記念撮影、その後13の見学コースに分かれて体験学習を行った。

今年度も大学食堂で利用できるデザート無料引換券が配付され、コース見学終了後、食堂は多数の親子連れで賑わった。

（３）メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

医学や健康について、秋田大学の教員が分かりやすく解説する講演会。「高齢社会を明るく元気に生きる」をテーマに、八峰町、潟上市、東成瀬村の 3 か所で開催した。

サイエンスカフェ・マスターの軽妙な進行のもと、各回とも 3 名の講師陣がそれぞれの専門分野から話題を提供した。意見交換の時間には、参加者から活発に質問が出された。

会場には飲み物と軽食を用意することで、カフェにいるような和やかな雰囲気を演出した。

①八峰町
日　　時　平成 26 年 8 月 8 日（金）15:00～17:15
会　　場　八峰町文化交流センターファガス
担当講師　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座　教授　中村順子
　　秋田大学教育文化学部地域社会講座　教授　柴田健
　　秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻　教授　水戸部一孝
サイエンスカフェ・マスター　秋田大学大学院医学系研究科長・教授　伊藤宏
参加者数　75 名

②潟上市
日　　時　平成 26 年 9 月 16 日（火）15:00～17:15
会　　場　潟上市天王公民館
担当講師　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座　教授　中村順子
　　秋田大学教育文化学部こども発達・特別支援講座　教授　森和彦
　　秋田大学大学院工学資源学研究科機械工学専攻　准教授　巖見武裕
サイエンスカフェ・マスター　秋田大学長　澤田賢一
参加者数　116 名

③東成瀬村
日　　時　平成 26 年 10 月 31 日（金）14:00～16:30
会　　場　東成瀬村防災情報センター
担当講師　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座　教授　中村順子
　　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻基礎看護学講座　准教授　佐々木久長
　　秋田大学教育文化学部教育実践講座　教授　髙﨑裕治
サイエンスカフェ・マスター　秋田大学大学院医学系研究科長・教授　伊藤宏
参加者数　42 名

（４）レクチャーコンサート「成田為三と山田耕筰の歌曲」

実 施 日　平成 27 年 2 月 14 日（土）
会　　場　秋田大学 60 周年記念ホール
担当講師　秋田大学教育文化学部教育実践講座　准教授　爲我井壽一
ピアノ伴奏　読売・日本テレビ文化センター講師　会田道孝　氏
受講者数　150 名

通常のコンサートに学びの要素を取り入れた「レクチャーコンサート」を開催した。声楽を専門とする爲我井准教授が講師を務め、「浜辺の歌」や「赤とんぼ」など全 10 曲を披露。曲の合間には各曲に込められた想いや歌う際の表現方法などを、技術面も含めて解説した。「秋田県民歌」など数曲は、来場者全員で歌う場面もあった。

なお当日は、成田為三が秋田県師範学校（秋田大学教育文化学部の前身）に在籍していた頃の資料を展示しているインフォメーションセンターを特別開放し、多くの方にご覧いただいた。

（５）秋田大学特別講演会「理系を目指す君たちへ」

実 施 日　平成 27 年 3 月 13 日（金）
会　　場　潟上市立天王中学校
担当講師　前理化学研究所理事長・前秋田県立大学長　小林俊一　氏
参加者数　約 200 名

潟上市立天王中学校 1、2 年生約 200 名を対象として、理系のスペシャリストから理科や科学の楽しさ、中学生の時に行っておくべきことなどについて中学生に伝えることを目的に開催した。

「理系を目指す君たちへ」をテーマに、小林俊一前理化学研究所理事長・前秋田県立大学長から、好きなことやおもしろいことを続けて行うことで何かを見つけられること、あらゆることに疑問を持って欲しいなどのメッセージが送られた。

（６）美郷町合併 10 周年記念事業 秋田大学客員教授 若松節朗 講演会
「ボク映画監督やってます」－映画には生きるヒントがいっぱい!－

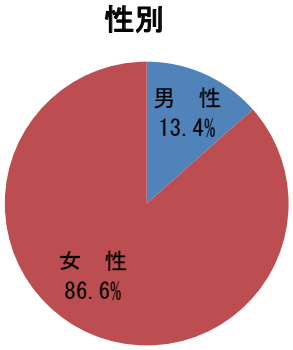
実 施 日　平成 27 年 3 月 17 日（火）
会　　場　美郷町公民館ホール
担当講師　秋田大学客員教授　若松節朗　氏
参加者数　約 360 名

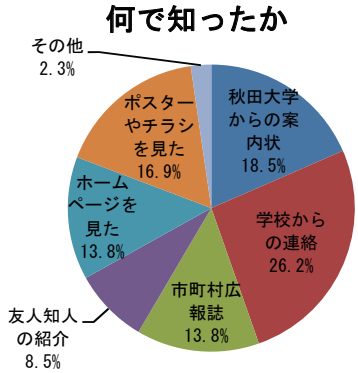
美郷町合併 10 周年記念事業の一環として，秋田大学客員教授で映画監督の若松節朗氏による講演会を開催した。

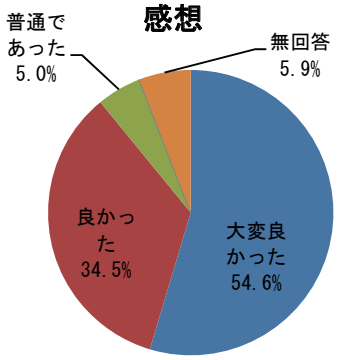
『「ボク映画監督やってます」－映画には生きるヒントがいっぱい！－』と題して，美郷中学校，六郷高校の生徒教職員をはじめ町民など約 360 名の聴衆を前に，自身の助監督時代のエピソードなどをユーモアを交えながら熱く語った。

秋田大学子ども見学デー　アンケート集計結果

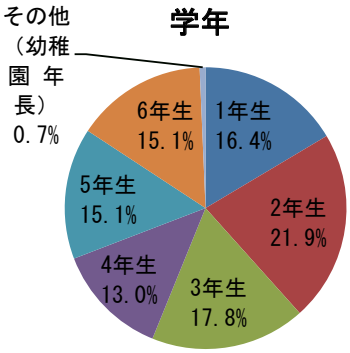
＜保護者＞参加者 123 名　アンケート回収数 119 名（回収率 96.7%）

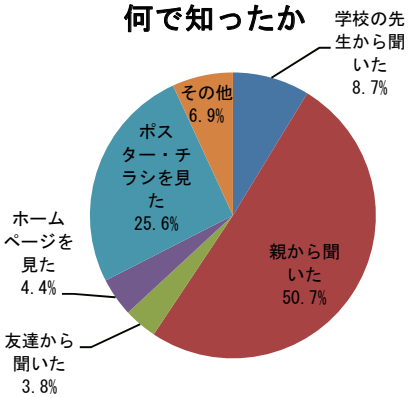


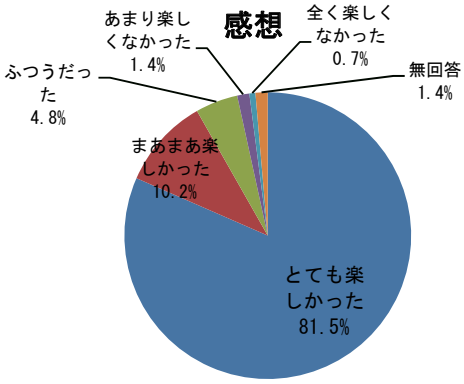




＜子ども＞参加者 152 名　アンケート回収数 146 名（回収率 96.1%）







■参加者の声（抜粋）

＜保護者＞

・今まで知らなかった大学の勉強内容が分かったり、子ども自身も大学に興味を持ったようなのでこのような機会があって良かったと思う。

・参加する前は時間が長いのかなと思いましたが、参加をしてみたらあっという間に時間が過ぎてしまいました。子供だけではなく大人もとても楽しめました。

＜子ども＞

・去年も参加しました。とても楽しいのでワクワク、ドキドキしています。教えてくださる学生さんたちがやさしく、ていねいに分かりやすくおもしろく教えてくれるので、私はうれしいなと思います。

・初めて、秋田大学にきたので、とても楽しかったし、ミクロの世界を初めてみれてよかったです。

■アンケート分析

児童は各学年バランス良く参加があり、9 割以上が楽しかったと回答している。

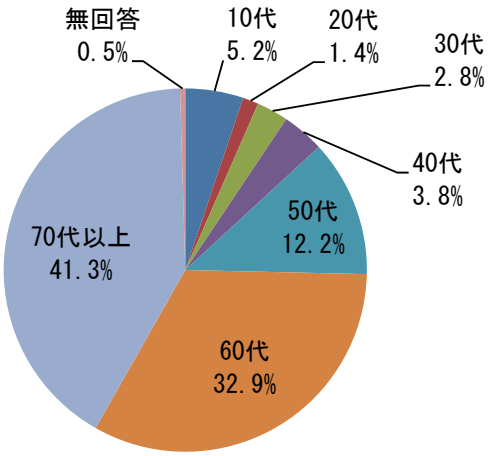
過去に参加した親子には直接開催案内を送付しており、保護者アンケートにおける「何で知ったか」の項目で 18.5%がそれに該当することから、約 5 分の 1 はリピーターであることが分かる。

参加した感想は概ね良いとの回答であり、興味を持ってもらえる内容を提供できていることが窺える。

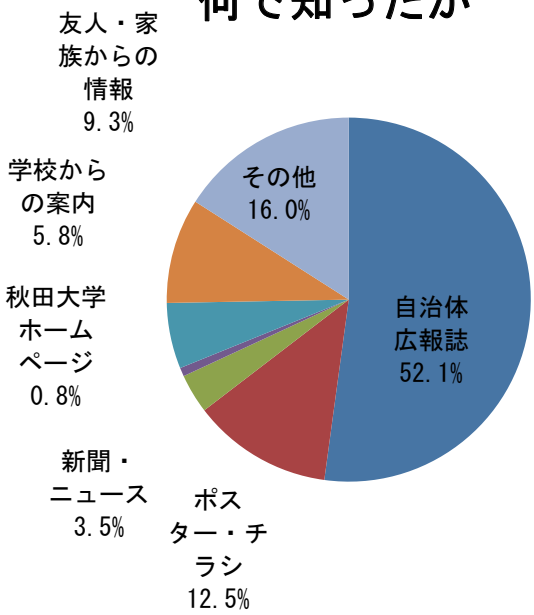
なお，平成 25 年度まで参加対象を小・中学生としていたが、今年度より小学生のみに限定した。しかし保護者アンケートからは「対象年齢を絞ってはどうか。」との意見がいまだに散見されるため、各見学コースにおける対象学年をより細かく設定するなどの工夫をしていく必要がある。

メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト（八峰町・潟上市・東成瀬村）アンケート集計結果

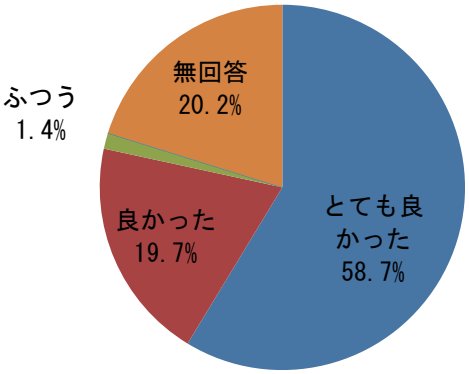
年齢



何で知ったか



感想



参加者数　２３３名
アンケート回答者数　２１３名
（回収率９１．４％）

■参加者の声（抜粋）

・とても楽しい時間を、ありがとうございました。最後まで自分らしく元気に明るく生きたいという思いが、増々強くなりました。

・高齢化社会に対するそれぞれのお話、自分の終活に大いに参考になりました。

・福祉、介護の道を将来目指す上で、とても参考になりました。地域について考えながら、介護の道にすすみたいと強く思いました。

■アンケート分析

60 代以上の方の参加が多く、自身の今後の生活に活かしたいという意見が多かった。

また、高校生の参加者からは、将来の進路の参考になった、などの意見もあった。

無回答を除けば、ほとんどが肯定的な意見であり、健康や高齢化というテーマに対する関心の高さが窺えた。継続的な開催を望む声もあるが、まずは他の地域でも実施できるよう計画していきたい。

１．５　他部局主催（年度計画推進経費による）

実施事業数：５件

●事業内容

地域創生センターの年度計画推進経費により、他部局で催行する社会貢献事業を支援している。

●事業成果と課題

天文台イベントや憩いのコンサート、附属ものづくり創造工学センターにおけるものづくり教室など、定期的に開催されるイベントは毎回好評を博している。

その他にも、広く市民を対象とした科学教室など、秋田大学への理解を深めてもらえるような事業を多く開催することができた。

実施事業

（１）秋田大学天文イベント

実 施 日　平成 26 年 4 月 5 日（土）～平成 27 年 3 月 21 日（土）

会　　場　秋田大学教育文化学部天文台

一般市民や中高生を対象として、天文台に親しみ活用してもらうことを目的に開催。45 ㎝大型反射望遠鏡「ミルエル」での天体観測の他、星空案内人資格認定講座や天文講演会などを実施し、多くの市民が参加した。

	実 施 日	内　　容	担当講師
①	平成 26 年 4 月 5 日（土）	イベント①星空案内人資格認定講座 「星空案内人認定書授与式」	
		イベント②天文講演会 「身近な天文現象や最新の天文学について」	
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「月・火星・木星とM81・M82 銀河の観察」	
		天文をテーマにした学習会（天文サイエンスカフェ）	
②	4 月 19 日（土）	イベント①天文をテーマにした発表会（天文サイエンスカフェ） 「身近な天文学や最新の天文学について」	
		イベント②天文講演会 「一家に 1 枚たんぱく質」の見方	秋田大学教育文化学部 准教授　石井照久
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「火星・木星と春の星座の観察」	
③	4 月 22 日（火）	市民のための夜間天体観察会 「こと座流星群の観察」	

④	5 月 3 日（土）	イベント①天文をテーマにした学習会（天文サイエンスカフェ）	
		イベント②天文講演会 「地球と金星のひみつ」	秋田大学教育文化学部 教授　林信太郎
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「月・火星・木星、M53 球状星団の観察」	
⑤	5 月 17 日（土）	天文をテーマにした発表会（天文サイエンスカフェ） 「身近な天文学や最新の天文学について」	
⑥	6 月 7 日（土）	イベント①天文をテーマにした学習会（天文サイエンスカフェ）	
		イベント②天文講演会 「星空カメラと光害 ―星空から考える環境問題―」	秋田大学教育文化学部 教授　上田晴彦
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「月・火星・水星、木星、土星M51 子持ち銀河の観察」	
⑦	6 月 21 日(土)	天文をテーマにした発表会（天文サイエンスカフェ） 「身近な天文学について」	
⑧	7 月 5 日（土）	イベント①天文をテーマにした学習会(天文サイエンスカフェ) 「天文をテーマにした学習会」	
		イベント②天文講演会 「火星：赤い星の謎」	秋田大学教育文化学部 教授　川村教一
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「月・火星・土星、M5 球状星団の観察」	
⑨	7 月 19 日（土）	天文をテーマにした発表会（天文サイエンスカフェ） 「身近な天文学や最新の天文学について」	
⑩	8 月 2 日（土）	秋田大学夏季オープンキャンパス特別公開 ＜昼の部＞「天文台見学、天体望遠鏡操作体験、昼間の天体観察、4次元デジタル宇宙シアター上映、天文グッズの工作」	
		＜夜の部＞天文サイエンスカフェ「身近な天文について」 天文講演会 「二十四節気と雑節のはなし ～七夕って?～」 市民のための夜間天体観察会 「月・火星・土星、M13 球状星団の観察」	
⑪	8 月 16 日（土）	天文をテーマにした発表会（天文サイエンスカフェ） 「身近な天文学について」	
⑫	9 月 6 日（土）	星空案内人資格認定講座 「第 1 回　さあ、はじめよう」	秋田大学教育文化学部 教授　上田晴彦
⑬	9 月 20 日（土）	天文サイエンスカフェ オリジナルのサイエンスマグネット・天文マグネットをつくろう	
⑭	10 月 4 日（土）	イベント①天文をテーマにした学習会(天文サイエンスカフェ) 「身近な天文学について」	
		イベント②星空案内人資格認定講座 「第 2 回　望遠鏡を使ってみよう」	にかほ市立平沢小学校 教諭　佐藤智幸
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「月・火星・土星、M57 リング星雲の観察」	
⑮	10 月 18 日（土）	秋田大学オープンキャンパス特別講演 ＜昼の部＞「天文台見学、天体望遠鏡操作体験、昼間の天体観察（金星、太陽面、晴天時のみ）、4 次元デジタル宇宙シアター上映、天文グッズの工作（星座早見盤・星座カード・天体写真パネル、手づくり望遠鏡など）	

		＜夜の部＞天文サイエンスカフェ 身近な材料で作るサイエンスグッズ・天文グッズをつくろう 2 市民のための夜間天体観察会 「火星、M57 リング星雲、その他の天体の観察」	
⑯	11 月 1 日（土）	イベント①天文をテーマにした学習会（天文サイエンスカフェ） 「身近な天文学について」	
		イベント②星空案内人資格認定講座 「第 3 回　望遠鏡のしくみ」	にかほ市立平沢小学校 教諭　佐藤智幸
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「月・火星、M2 球状星団の観察」	
⑰	11 月 15 日（土）	天文サイエンスカフェ 身近な材料で作るサイエンスグッズ・天文グッズをつくろう 3	
⑱	12 月 13 日（土）	イベント①天文をテーマにした学習会（天文サイエンスカフェ） 「身近な天文学について」	
		イベント②星空案内人資格認定講座 「第 4 回　星の文化に親しむ」	秋田大学教育文化学部 教授　川村教一
		イベント③ 市民のための夜間天体観察会 「月・火星、M31 アンドロメダ大銀河の観察」	
⑲	12 月 27 日（土）	天文サイエンスカフェ 身近な材料で作るサイエンスグッズ・天文グッズをつくろう 4 「オリジナルサイエンスうちわの工作」	
		あなたもサイエンスコミュニケーター 「空と虹、光の色について」	星空案内人、天文ボランティア　池田味栄子
⑳	平成 27 年 1 月 10 日（土）	イベント①天文サイエンスカフェ 「身近な天文学について」	
		イベント②星空案内人資格認定講座 「第 5 回　星座を見つけよう」	秋田大学教育文化学部 総括技術長　成田堅悦
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「火星・水星・金星、ペルセウス座二重星団の観察」	
㉑	1 月 24 日（土）	天文サイエンスカフェ 身近な材料で作るサイエンスグッズ・天文グッズをつくろう 5 「星座マグネットの工作」	
㉒	2 月 7 日（土）	イベント①天文サイエンスカフェ 「身近な天文学について」	
		イベント②星空案内人資格認定講座 「第 6 回　宇宙はどんな世界」	秋田大学教育文化学部 教授　上田晴彦
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「火星・木星・金星、M45 プレアデス星団の観察」	
㉓	2 月 21 日（土）	天文サイエンスカフェ 身近な材料で作るサイエンスグッズ・天文グッズをつくろう 6 「いろいろなサイエンスグッズの工作」	
㉔	3 月 7 日（土）	イベント①天文サイエンスカフェ 「身近な天文学について」	
		イベント②星空案内人資格認定講座 「第 7 回　星空案内の実際」	秋田大学教育文化学部 技術長　毛利春治
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「火星・木星・金星、M45 プレアデス星団の観察」	
㉕	3 月 21 日（土）	身近な材料で作るサイエンスグッズ・天文グッズをつくろう 7 「いろんなサイエンスグッズの工作」	

（２）秋大憩いのコンサート

開催期間　平成 26 年 4 月 19 日（土）～平成 27 年 3 月 28 日（土）　計 12 回

会　　場　秋田大学インフォメーションセンター

平成 22 年 4 月に手形キャンパスに開設したインフォメーションセンターを広く知ってもらい、社会貢献に活用するために開催した。月 1 回、全 12 回にわたって、本学教員や学生、卒業生等が出演した。

	実 施　日	内　　容
第43回	平成 26 年 4 月 19 日（土）	和と洋の出会い・宮城道雄の世界 （春の海、水滴、せきれい ほか） 演奏：田中郷子（箏） 北嶋奏子（バイオリン） 櫻庭優佳（ソプラノ）
第44回	5 月 18 日（土）	学生によるフレッシュ・コンサート （ピアノ、声楽、管楽器 など） 演奏：音楽教育講座の学生
第45回	6 月 29 日（日）	びっくり 8 手連弾 （Ｊ・シュトラウス　ラデツキ―行進曲 ほか） 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 齋藤洋（ピアノ） 大山英子（ピアノ） 齊藤秋子（ピアノ） 堀谷睦美（ピアノ）
第46回	7 月 27 日（日）	夏の日の歌声 （浜辺の歌、夏の思い出…会場の皆様もご一緒に!） 演奏：教育文化学部教育実践講座 准教授 爲我井壽一（テノール） 齋藤琴美（メゾ・ソプラノ） 畠山由美（ピアノ）
第47回	8 月 23 日（土）	ピアノで日本民謡 （全国の民謡を大胆なアレンジで） 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 齋藤洋（ピアノ）
第48回	9 月 28 日（日）	放浪のバイオリン （サラサーテ チゴイネルワイゼン ほか） 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 齋藤洋（ピアノ） 北嶋奏子（バイオリン）
第49回	10 月 12 日（日）	サウンド・オブ・ミュージック （ドレミの歌、エーデルワイス ほか 劇中の挿入歌を） 演奏：小野崎彰子（ソプラノ） 木下裕美（ピアノ）
第50回	11 月 29 日（土）	ピアノで子守唄 （シューベルト、ブラームス、ショパン等の作曲した子守唄を） 演奏：教育文化学部音楽教育講座　准教授　斎藤洋（ピアノ）
第51回	12 月 14 日（土）	学生によるクリスマス・コンサート 演奏：音楽教育研究室の学生 （ピアノ、声楽、管楽器､合唱）
第52回	平成 27 年 1 月 25 日（日）	教員と学生による声楽コンサート （ディ・カプア オー・ソレ・ミオ、小林秀雄 落葉松 ほか） 演奏:教育文化学部教育実践講座 准教授 爲我井壽一（テノール） 浦恵美（ピアノ） 音楽教育研究室の学生
第53回	2 月 22 日（日）	革新の響き～20 世紀のピアノ音楽 （武満徹　雨の樹素描 Ⅱ、ラヴェル 「鏡」より ほか） 演奏:伊藤伸（ピアノ）
第54回	3 月 28 日（土）	ギター音楽の歩み～16 世紀から現代まで （タレガ アルハンブラ宮殿の思い出 ほか） 演奏：柴田周子（ギター）

（３）子どものづくり教室

子どもたちを対象に、ものづくりを通して科学や宇宙へ興味を持ってもらうことを目的に平成 21 年度から実施している。今年度は 11 回に渡って開催した。参加者は、身近なものを使った作品づくりを通して、ものづくりの楽しさを実感した様子だった。

① 1 回「モデルロケット製作・打上げ体験」

実 施 日　平成 26 年 4 月 20 日（月）
会　　場　秋田大学　ものづくり創造工学センター　創造組立作業室ならびに陸上競技場
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
副センター長・講師、YAC 秋田分団副分団長　和田豊
YAC 秋田分団分団長　土岐仁
秋田大学国際資源学部国際資源学科資源地球科学コース　准教授　山崎誠
秋田大学大学院工学資源学研究科生命科学専攻　准教授　秋葉宇一
技術職員　関啓亮
技術系補佐員　前田恵介
スタッフ　加藤隆一
秋田大学生

モデルロケットは身近にある材料で簡単に作ることができ、まっすぐに高く飛ぶことにはきちんとした理由があり、また反対に、うまく飛ばないことにもそれなりの理由があります。小中学生がモデルロケット作りに挑戦することで、科学への関心を向上させ、ものづくりの楽しさを体験してもらうことを目的に開催した。

② 2 回「～太陽の光を電気エネルギーに変えて走る車!手作りソーラーカー～」

実 施 日　平成 26 年 5 月 18 日（日）
会　　場　ものづくり創造工学センター 創造組み立て作業室
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授　　神谷修
副センター長・講師　和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科環境応用科学専攻 助教 北林茂明
秋田大学大学院工学資源学研究科材料工学専攻 准教授 大口健一
技術職員　関啓亮
技術系補助員　前田恵介
スタッフ　加藤隆一
秋田大学生

どのようにしたら太陽光パネルに効率よく、太陽光を当て続けることが出来るかを考えながら、「太陽光パネル」を搭載したソーラーカーを製作した。

③ 3 回「～チームでつくろう!紙飛行機とパスタタワー製作～」

実 施 日　平成 26 年 6 月 8 日（日）
会　　場　秋田市民交流プラザ
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
副センター長・講師　和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科電気電子工学専攻　准教授　田沼慶忠
秋田大学大学院工学資源学研究科電気電子工学専攻　講師　河村希典
技術系補助員　前田恵介
スタッフ　加藤隆一

「ソフトウェアシンポジウム 2014」の併設イベントとして、紙飛行機とパスタタワーを製作し、飛距離や高さをチームで競い合った。紙飛行機を遠くへ飛ばすための多くの工夫や、パスタタワーを高く作るための知恵をチームで考えながら、製作を行った。

④　4 回「～風に向かって走る車！ウィンドカー製作～」
実 施 日　平成 26 年 7 月 13 日（日）
会　　場　ものづくり創造工学センター 創造組み立て作業室
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授　　神谷修
副センター長・講師　和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻　助教　藤原克哉
秋田大学大学院工学資源学研究科機械工学専攻　講師　関健史
技術系補助員　前田恵介
スタッフ　加藤隆一
秋田大学生

子どもたちは、どうして風に向かって走ることができるのか、どのくらいの風力で走ることができるのか、など色々なことを考えながら、ウィンドカーの製作を行った。

⑤　5 回「～能代宇宙イベントモデルロケット打ち上げ体験と宇宙開発の本物見学会～」
実 施 日　平成 26 年 8 月 17 日（日）
会　　場　秋田県能代市　宇宙広場（秋田県浅内第三鉱さい堆積場）
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授　　神谷修
副センター長・講師　和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科土木環境工学専攻　准教授　日野智
秋田大学大学院工学資源学研究科共同ライフサイクルデザイン工学専攻
准教授　佐藤正志
技術系補助員　前田恵介
技術部 4 名
秋田大学生

3DCAD ソフトの基本的な操作方法や、3D プリンタの原理などを学びながら、オリジナルキーホルダーを製作した。

⑥　6 回「～ペットボトルで作る不思議な噴水の製作～」
実 施 日　平成 26 年 9 月 21 日（日）
会　　場　ものづくり創造工学センター 創造組み立て作業室
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授　　神谷修
副センター長・講師　和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科理工学センター　准教授　吉村哲
技術職員　関啓亮
技術系補助員　前田恵介
技術部　　永作清
石川広美
田村オリエ
小松和三

電気や動力などを使わず水と空気の力を利用したペットボトルの噴水の、原理や仕組みについて説明を聞きながら製作を行った。

⑦　7回「～ふりふりスティックで電気をおこそう!～」
実 施 日　平成26年10月26日（日）
会　　場　ものづくり創造工学センター 創造組み立て作業室
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
　センター長・教授　　神谷修
　副センター長・講師　和田豊
秋田大学国際資源学部国際資源学科地球資源学専攻　准教授　山﨑誠
秋田大学大学院工学資源学研究科生命科学専攻　准教授　秋葉宇一
技術系補助員　前田恵介
工学資源学技術部　小原直子
谷口智行
加藤陽介
伊藤慶郎
齋藤正親
齋藤翼

筒の中のビー玉を振って動かすと、圧電素子にぶつかった瞬間電気がおき、ＬＥＤを光らせることができる「ふりふりスティック」を製作した。

⑧　8回「～岩絵の具をつくろう!そして、絵を描いてみよう!～
実 施 日　平成26年11月9日（日）
会　　場　ものづくり創造工学センター 創造組み立て作業室
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
　センター長・教授　　神谷修
　副センター長・講師　和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科材料工学専攻　准教授　大口健一
秋田大学大学院工学資源学研究科環境応用化学専攻　助教　北林茂明
工学資源学研究科技術部　関啓亮
菊地良栄
大平俊明
加賀谷史
国際資源学部技術部　川原谷浩
千田恵吾
佐藤祐美
宗田俊彦
技術系補助員　前田恵介

「岩絵具を作ろう!そして、絵を描いてみよう!」と題して、顔料となる鉱物から岩絵の具を作り、葉書に絵を描く教室を行った。

⑨　9回「～身近なもので電池をつくろう!～」
実 施 日　平成26年12月14日（日）
会　　場　ものづくり創造工学センター 創造組み立て作業室
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
　センター長・教授　　神谷修
　副センター長・講師　和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科電気電子工学専攻　准教授　田沼慶忠
秋田大学大学院工学資源学研究科電気電子工学専攻　講師　河村希典
工学資源学研究科技術部　田中春美
小松芳成
鈴木浩巳
菅原和久
高橋智也
佐藤菜花
技術系補助員　前田恵介

十円玉と一円玉を使った十一円電池、お弁当用のアルミカップと活性炭を使ったアルミカップ電池、さらにアルミカップ電池と原理は一緒であるが、乾電池の形状に似せた活性炭電池の製作を実施した。

⑩　10 回「～3DCAD と 3D プリントを体験しよう！～」
実 施 日　平成 27 年 1 月 25 日（日）
会　　場　ものづくり創造工学センター CAD 室
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
　　センター長・教授　　神谷修
　　副センター長・講師　和田豊
　　秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻　助教　藤原克哉
　　秋田大学大学院工学資源学研究科機械工学専攻　講師　関健史
　　技術系補助員　前田恵介

3DCAD ソフトの基本的な操作方法や 3D プリンタの原理などを学びながら、オリジナルキーホルダーを製作した。

⑪　11 回「ビジュアルプログラミングでゲームをつくろう!」
実 施 日　平成 27 年 2 月 15 日（日）
会　　場　ものづくり創造工学センターCAD 室
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター
　　センター長・教授　　神谷修
　　副センター長・講師　和田豊
　　秋田大学大学院工学資源学研究科土木環境工学専攻　准教授　日野智
　　秋田大学大学院工学資源学研究科共同ライフサイクルデザイン工学専攻　准教授　佐藤正志
　　技術職員　加藤隆一
　　技術系補助員　前田恵介

プログラムの基本的な仕組みや、子ども向けに開発されたビジュアルプログラミング言語「Moon Block（ムーンブロック)」の操作方法やプログラムの基本的な仕組みなどを学びゲームの製作を行った。

（４）秋田大学総合技術部第六回テクノフェスタ　ー来て見てさわれるカガクのフシギー

実 施 日　平成 26 年 11 月 29 日（土）
会　　場　秋田拠点センター アルヴェ きらめき広場
担当講師　秋田大学総合技術部
参 加 者　300 名

実験・体験活動を通じて秋田大学技術系職員の専門的な仕事内容を紹介し、大学の教育・研究に興味を持ってもらうことを目的に開催。6 回目となる今回は、鋳物作りやドライビングシミュレーター体験など、11 種類の企画を用意した。

（５）平成 26 年度子ども科学教室「土の科学」

実 施 日　平成 26 年 12 月 26 日（金）
会　　場　秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
　　工学資源学研究科 4 号館
担当講師　秋田大学大学院工学資源学研究科環境応用化学専攻
　　准教授　加藤純雄ほか研究室スタッフ
参 加 者　21 名

身近にある「土」をテーマに、環境問題を考えながらレクチャーと実験を実施。当日は珪藻土や土に含まれる元素の観察などを行ったほか、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの施設を見学した。

１．６　その他

（１）秋田県赤十字血液センターによる献血事業への協力

今年度も引き続き秋田県赤十字血液センターの献血事業への協力として、献血カーの受入を年間 13 件行った。学内への献血カー運行の際など、学生や教職員に対して献血事業への興味・関心を深め、献血へ協力してもらうことを目的とし、学内周知に力を入れた。

（２）「秋田大学キャンパスガイドマップ」の作成（第７版）

「地域に開かれた大学」を目指した活動の一環として、平成 21 年度から作成し、大学見学受入やイベント等の際に配布し、好評を得ている。平成 26 年度は、新設の国際資源学部についての内容を追加・修正するなどの改訂を加えた。

地域防災部門

地域防災部門長あいさつ

地域創生センター　教授・地域防災部門長
水　田　敏　彦

秋田大学地域創生センター地域防災部門は2011年（平成23年）9月に設置され、3年半が経過しました。秋田県の特性を考慮した地域防災に関する調査研究、防災について地域で活動できる人材育成、県及び市町村への防災活動支援を行うことを使命としています。専任教員わずか2名の小さな部門ですが、この使命を踏まえ、学内外からの多くの方々の力を借りて、秋田県で発生が考えられる多様な災害研究の推進、防災教育・啓発活動などを進めています。多大なご支援を得て、順調に事業・活動実績を積み重ねることができました。ここに改めまして関係各位に深く感謝申し上げる次第です。

東日本大震災を踏まえた秋田県地震被害想定調査では、日本海東縁部の巨大地震による秋田県の被害は、最大で死者が1万2千人を超え、全壊建物は6万棟以上、直接経済被害額は 3 兆円を超えることが試算されています。これらの地震被害想定の結果に関しては様々な仮定に基づいており、実際に地震が発生した場合にこのシナリオどおり災害が発生するわけではありませんが、我が国の財政状況や秋田県の人口減少・少子高齢化を考えれば、被害軽減への取り組みは「公助」の割合が減っていく中での総力戦であることは間違いないと思います。このような状況のなか、この一年間、防災・減災に関する調査研究や地域活動に尽力して参りました。特に、本学が採択された文部科学省「地（知）の拠点整備事業」では、テーマ 1「高齢社会における安全安心な地域づくり」に取り組み、豪雪地帯の積雪寒冷地における地震防災（横手市）と広い低平地における津波対策（潟上市）について、本年度から本格的な活動を開始しています。

本報告書は、平成26年度における地域創生センター地域防災部門の1年間の活動状況をまとめたものです。今後も、これまでの活動を継続しつつ、防災・減災社会の実現のため、みなさまと共に歩んでいきたいと思います。

２．１　秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究

（１）秋田県の歴史地震に関する研究

実施期間　通年
場　　所　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

秋田県で発生した歴史地震について、当時の被害調査報告書や地方新聞記事等から、秋田県内の被害分布や人的被害の発生状況、震災対応といった被害の実態を明らかにする研究を進めた。

（２）強震計を用いた地震観測

実施期間　通年
場　　所　秋田市（秋田大学）
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

特に秋田市における地震災害の防災・被害軽減化に貢献する、秋田大学手形キャンパスにおける地震観測を実施し、地震災害危険度について検討を行った。

（３）潟上市など秋田県沿岸地域における地震・津波防災に関する研究

実施期間　通年
場　　所　潟上市・男鹿市・八峰町・にかほ市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

過去の津波履歴に関する研究成果を基に、沿岸域における津波防災教育プログラムの検討を行った。この研究に関連して、11 月に潟上市で COC フォーラムを実施し、同市における取り組み状況を報告した。

（４）秋田県および日本海側北部地域における過去の地震・津波痕跡に関する研究

実施期間　通年
場　　所　秋田県・日本海側北部
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

八峰町、男鹿市、潟上市およびにかほ市で津波堆積物調査を実施した。調査結果を基に、秋田県沿岸部における巨大津波の履歴を検討し、日本地球惑星科学連合および日本第四紀学会に公表した。

（５）秋田県内の小学校における児童・保護者・教員の防災意識に関する研究

実施期間　通年
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

平成 25 年度に引き続き、小学校の児童、保護者そして教職員を対象とした防災意識に関するアンケート調査を行った。研究成果は土木学会東北支部研究集会にて公表した。今後、その結果を踏まえ、次年度以降の防災教育内容を検討する予定である。

（６）秋田県最古の歴史地震 830 年天長地震の研究

実施期間　通年
場　　所　秋田市・由利本荘市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　地域防災アドバイザー　野越三雄

昨年度から継続して、古文書を基礎にして秋田県最古の 830 年天長地震によって被害を受けた秋田城の復元と従来の研究資料成果と昨年度の秋田県地震被害想定成果等を総合的に検討した。その結果従来の震源断層の位置に疑義が出て、南の北由利断層との整合性の検討も必要との指摘を行った。

（７）地震伝承（言い伝え）の「聞き書き」手法研究

実施期間　通年
場　　所　秋田県沿岸一帯
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　地域防災アドバイザー　野越三雄

1983 年日本海中部地震直後津波被害で顕在化した「地震が起きたら海岸へ逃げろ」との言い伝えについて、地震伝承の第一義的研究として当時発行の「さきがけ新報」を中心に資料的研究を行い、秋田大学 COC 事業の一つ「聞き書き」手法の訓練を学び伝承問題への実践的課題の適用性を探った。

（８）緊急地震速報の実践的研究

実施期間　通年
場　　所　秋田市（秋田大学）
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　地域防災アドバイザー　野越三雄

当研究室に設置した CATV 端末子機による今年度の結果は 7 月 5 日 7：42 岩手県沖（M5.8）発生。研究室不在。自宅作動。秋田市震度２のため作動不明。7 月 12 日 4：22 福島県沖（M6.8）発生：研究室不在。自宅作動。秋田市震度２のため作動不明。7 月 22 日 5：13 秋田県沿岸北部発生。研究室不在。自宅作動。男鹿市震度２のため作動不明。2 月 17 日 8：6 三陸沖（M6.9）発生。研究室不在。自宅作動。秋田市震度 3 作動不明。2 月 17 日 13：46 岩手県沖（M5.7）発生。研究室不在。自宅作動不明。秋田市震度不明。以上不明点が多数のため現在共同研究者佐々木祐人氏（CNA）と調査中。

（９）津波堆積物研究に関するボーリングコア試料の解析

実施期間　通年
場　　所　埼玉県・東京都・神奈川県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

応用地質株式会社エネルギー事業部にて、秋田県沿岸部で掘削したボーリングコア試料の解析作業および論文作成に関する打ち合わせなどを行った。

(10) 潟上市における津波堆積物調査

実施期間　通年
場　　所　潟上市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

潟上市において津波痕跡調査を実施した。
6 月 4 日（水）　調査のための用地選定
6 月 6 日（金）　天王地区の現地下見
7 月 8 日（火）　天王地区にて現地調査（測量）
9 月 10 日（水）　天王地区にて調査地点の選定
11 月 25 日（火）　潟上市担当者とボーリング調査の打ち合わせ→潟上市担当者から地権者へ調査内容を説明
12 月 8 日（月）
　～9 日（火）　天王地区にて津波堆積物調査を実施

(11) 男鹿市における津波堆積物調査

実施期間　通年
場　　所　男鹿市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

男鹿市において津波痕跡調査を実施した。
6 月 6 日（金）　脇本地区の現地下見
9 月 19 日（金）　男鹿市役所へのボーリング調査の用地交渉、調査候補地の現地視察
9 月 30 日（火）　脇本水利組合長へ津波堆積物調査の協力依頼
11 月 25 日（火）　脇本地区ならびに船川地区にて調査用地の選定作業
12 月 4 日（木）　地権者から土地使用の許諾を得る
12 月 9 日（火）　脇本地区にて津波堆積物調査を実施

(12) 八峰町における津波堆積物調査

実施期間　通年
場　　所　八峰町
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

八峰町において津波痕跡調査を実施した。
9 月 17 日（水）　八森地区および峰浜地区にて、津波堆積物調査の地点選定
9 月 23 日（火）　八森地区および峰浜地区にて、津波堆積物調査
9 月 30 日（火）　峰浜地区海岸近くの休耕田にて津波痕跡調査
12 月 3 日（水）　八峰町役場へ津波堆積物調査の協力依頼
12 月 9 日（火）　脇本地区にて津波堆積物調査を実施
12 月 12 日（金）　峰浜地区にてボーリング地点選定作業
12 月 18 日（木）　峰浜地区にて津波堆積物調査を実施

(13) にかほ市における津波堆積物調査

実施期間　通年
場　　所　にかほ市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

にかほ市において津波痕跡調査を実施した。
5 月 15 日（木）　にかほ市担当者と津波堆積物研究について打ち合わせ、調査予定地の選定
6 月 6 日（金）　三森地区の現地下見
7 月 8 日（火）　三森地区にて現地調査（測量）
27 年 2 月 17 日（水）　沿岸部にて現地調査

(14) 地震防災に関する調査・情報収集

実 施 日　平成 26 年 5 月 1 日（木）
場　　所　横手市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

横手市および大仙市の地震防災に関する調査・情報収集を行った。

(15) 古地震研究に関する野外調査および研究打ち合わせ

実 施 日　平成 26 年 6 月 28 日（土）～29 日（日）
場　　所　山形県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

山形県天童市、酒田市にて古地震研究に関する予備調査および秋田県沿岸の津波堆積物に関する論文の打ち合わせを行った。

(16) 都市計画図の収集および現地調査

実 施 日　平成 26 年 7 月 9 日（水）
場　　所　横手市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

横手市役所において都市計画図の収集および現地調査を行った。

(17) 美郷町教育委員会への研究協力依頼および現地調査

実 施 日　平成 26 年 7 月 22 日（火）
場　　所　美郷町
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

美郷町役場にて、美郷町教育委員会職員と面会し、美郷町の小学校で実施を考えている防災教育について協力を依頼した。上記打ち合わせ後、美郷町千屋、六郷周辺にて出前授業の教材を検討するための調査を実施した。

(18) 地震防災に関する調査

実 施 日　平成 26 年 8 月 1 日（金）
場　　所　岩手県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

岩手県西和賀町および横手市において陸羽地震に関する調査を行った。

(19) 津波堆積物研究に関する野外調査

実 施 日　平成 26 年 8 月 18 日（月）～20 日（水）
場　　所　青森県・岩手県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

青森県沿岸域（むつ市から下北半島西北岸）にかけて過去の津波痕跡に関する予備調査を実施した。

(20) 防災教育研究に関するアンケート調査

実 施 日　平成 26 年 10 月 15 日（水）～16 日（木）
場　　所　鹿角市・能代市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

防災教育研究の実施のため、能代市立第四小学校および鹿角市立尾去沢小学校を訪問し、アンケート調査を各校長に依頼した。

(21) 防災教育研究に関する情報収集

実 施 日　平成 26 年 10 月 17 日（金）～18 日（土）
場　　所　大館市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

小学校における防災教育研究を実施するため、大館市立城西小学校を訪問し、防災キャンプに参加した。

(22) 住宅の振動調査

実 施 日　平成 26 年 10 月 21 日（火）
場　　所　横手市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

横手市にて住宅の振動調査を実施した。

(23) 防災教育研究に関する打ち合わせ

実 施 日　平成 26 年 10 月 23 日（木）
場　　所　大館市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

大館市立桂城小学校にて、防災意識に関するアンケート調査の打ち合わせを実施した。アンケート調査は、児童、その保護者、教職員に対し実施するものである。

(24) 庄内平野の地盤振動調査

実 施 日　平成 26 年 11 月 10 日（月）～12 日（水）
場　　所　山形市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

庄内平野の地盤振動調査を行った。

(25) 積雪寒冷地の防災基礎調査

実 施 日　平成 26 年 12 月 15 日（月）～16 日（火）
場　　所　横手市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

横手市増田・狙半内・山内地区において、積雪寒冷地の防災基礎調査を行った。

(26) 積雪寒冷地の防災フィールドワーク

実 施 日　平成 27 年 1 月 25 日（日）、1 月 31 日（土）～2 月 1 日（日）
場　　所　横手市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

教養ゼミの授業として積雪寒冷地の防災フィールドワークを行った。

(27) 横手市冬季防災検証訓練への参加

実 施 日　平成 27 年 2 月 22 日（日）
場　　所　横手市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

横手市冬季防災検証訓練へ参加し、積雪寒冷期の地震災害を想定した避難訓練を視察した。

(28) 津波堆積物研究に関する打ち合わせ

実 施 日　平成 27 年 3 月 12 日（木）
場　　所　東京都
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター会議スペースにて、宮崎県沿岸部で実施している古津波研究の論文執筆計画および追加現地調査について、独立行政法人日本原子力研究開発機構、応用地質株式会社エネルギー事業部の各担当者と打ち合わせを行った。

(29)「日本地球惑星科学連合 2014 年大会」における発表

実 施 日　平成 26 年 5 月 2 日（金）
場　　所　神奈川県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

「津波堆積物」のセッションで、「秋田県沿岸域における古津波痕跡調査」というタイトルで発表した。

(30) ヨーロッパ地震工学国際会議での発表および情報収集

実 施 日　平成 26 年 8 月 22 日（金）～9 月 2 日（火）
場　　所　トルコ共和国
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

ヨーロッパ地震工学国際会議での発表および情報収集を行った。

(31) 日本第四紀学会大会への参加・発表

実 施 日　平成 26 年 9 月 5 日（金）～7 日（日）
場　　所　千葉県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

東京大学柏キャンパスで開催された日本第四紀学会 2014 年大会に参加し情報収集を行い、シンポジウムⅢ「プレート沈み込み境界における古地震・古津波研究」にて口頭発表を行った。

(32) 日本建築学会での発表および情報収集

実 施 日　平成 26 年 9 月 11 日（木）～14 日（日）
場　　所　兵庫県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

日本建築学会大会にて、発表および情報収集を行った。

(33) 日本安全教育学会での発表および情報収集

実 施 日　平成 26 年 9 月 15 日（月）
場　　所　宮城県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

日本安全教育学会ワークショップにおいて発表および情報収集を行った。

(34) 歴史地震研究会での発表および情報収集

実 施 日　平成 26 年 9 月 19 日（金）～23 日（火）
場　　所　愛知県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

歴史地震研究会での発表、情報収集および根尾谷断層の調査を行った。

(35) 東北地域災害科学研究集会での発表および情報収集

実 施 日　平成 27 年 1 月 9 日（金）～10 日（土）
場　　所　山形県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

東北地域災害科学研究集会での発表および防災教育に関する情報収集を行った。

(36) 土木学会東北支部における発表

実 施 日　平成 27 年 3 月 6 日（金）～7 日（土）
場　　所　宮城県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

東北学院大学工学部で行われた土木学会東北支部技術研究発表会にて、今年度 COC 事業で実施した研究に関する成果を発表した。

(37) 日本地質学会東北支部における発表

実 施 日　平成 27 年 3 月 7 日（土）～8 日（日）
場　　所　岩手県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

岩手大学工学部で行われた日本地質学会東北支部 2014 年度学術大会にて、今年度 COC 事業で実施した研究に関する成果を発表した。

(38) 防災教育国際フォーラム参加および被災地調査

実 施 日　平成 27 年 3 月 14 日（土）～16 日（月）
場　　所　宮城県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

防災教育国際フォーラム参加および宮城・福島の被災地調査を行った。

２．２　防災について地域で活動できる人材の育成

事業数：48 回
（講演会等 23 回、出前授業 25 回）
参加者：6,106 名
（講演会等 1,368 名、出前授業 4,738 名）

●事業内容

県内各幼保小中高等学校、特別支援学校、自主防災組織等での防災授業、講演会を実施した。教育機関における出前授業においては、防災教育は早い段階からの意識啓発が重要であることから、講義に加え、建物倒壊実験および津波発生実験を行うことにより体験による理論の把握を促した。また、自主防災組織を対象とした講義では、発災時に自主防災組織リーダーあるいは町内会が取るべき行動と、地域住民における日頃からの防災意識の喚起、避難所運営の際の注意点などを述べた。

●事業成果と課題

年度内 48 回の実施により、約 6,100 名の受講者となった。今年度は児童による「防災マップ」づくりを実施。児童が自分達の住む町を知る機会や地震発生時に危険となる場所の把握を促すとともに、本学学生が参加したことで、地域の実情を学生自身が現地で知る機会を得た。今後はこのように学生が参画する事業の企画・実施も推進していきたい。

実施講座

１）講演会等

（１）「秋田中央高校 SSH」講演会

実 施 日　平成 26 年 4 月 21 日（月）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　240 名

「過去の大震災に学ぶ～震災と建築～」をテーマに講演。昨年度秋田中央高校が文部科学省 SSH に指定されたことから、昨年度に引き続き企画されたもので、講演を通して生徒の研究基礎力を育成することを目的とした。秋田市が公表した津波ハザードマップについて「積極的に見て欲しい。そしてどういう過程でつくったかを考えて欲しい」と、地域の考察と共に科学について興味を持って欲しいことを述べた。また、1914 年秋田仙北地震や 1968 年十勝沖地震などを例に挙げ、建物の構造や材料などから被害状況の差を説明し、時代の変化とともに変わってきた耐震基準について解説した。

（２）「秋田大学医学部附属病院災害対策研修会」講演

実 施 日　平成 26 年 4 月 21 日（月）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　150 名

秋田大学医学部附属病院は、秋田県の災害医療に関して中心的な役割を果たす「基幹災害拠点病院」に指定されている。水田教授は大学病院「災害対策委員会」委員として参画していることから、「地震災害の基礎知識～秋田において考えるべき地震災害と防災～」をテーマに、秋田県内で災害が発生したときに対応できるための講演を行った。

（３）「秋田地方気象台」講演

実 施 日　平成 26 年 7 月 30 日（水）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　25 名

「防災教育促進のための課題と方策等について」と題し講演。地域創生センターが実施している出前授業をとおして感じた防災教育の現状と課題、実施する際に注意することなどについて述べた。また、東日本大震災で人的被害を出さなかった釜石小学校の防災教育や、秋田県能代市の自主防災組織が行っている優れた取り組みなどを紹介し、学校・行政・地域が協力しあうことが大事であることを説明した。

（４）「湯沢西地区・災害から生活を守る会」講演

実 施 日　平成 26 年 10 月 5 日（日）
場　　所　湯沢市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　50 名

「地域と家族を守るための防災・減災活動について」と題し講演。過去に湯沢市付近で発生した地震について、当時の写真を交えて解説した。また、家庭で簡単にできる家具の固定方法や、地震について家族で話し合うことの重要性について説明し、日頃から地震について考えておくことが「安全」へ繋がると述べた。

（５）「西和賀町実践防災委員会」講演

実 施 日　平成 26 年 10 月 14 日（火）、平成 27 年 1 月 13 日（火）
場　　所　岩手県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　のべ 40 名

水田地域防災部門長は西和賀地域の防災・減災について検討するために組織された「西和賀町実践防災委員会」委員として参画しており、10 月には「北東北内陸地域で発生した明治以降の歴史地震とその教訓」、1 月には「積雪寒冷地における地震災害と防災」をテーマに、北東北内陸部で過去に発生した地震や、岩手県一豪雪地帯である西和賀町で地震災害が発生した場合について講演した。

（６）「秋田市自主防災組織リーダー研修会」講演

実 施 日　平成 26 年 10 月 19 日（日）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　50 名

「自主防災組織における地震防災・減災活動を考える。～家族と地域を守るために～」と題し講演。減災には各々の防災への心がけと行動が大切であることから、自助意識の徹底と共助の強化が重要であると説明。近年は人口減少や住民の高齢化が問題となっていることから、今後は小中高等学校等と連携して活動を行うなど、防災力向上のために地域全体が協力し合うことが必要になると述べた。

（７）「羽後町避難訓練」講演

実 施 日　平成 26 年 10 月 22 日（水）
場　　所　羽後町
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　100 名

羽後町全域を対象として行われた避難訓練。羽後町で実施する大規模な実施は初めて。1914 年に発生した秋田仙北地震の規模や被害などについて解説し、100 年前に発生した地震を次代に語り伝えて欲しい、災害を忘れず日頃から備えて欲しいと述べた。また、地震災害では行政などを頼り切りにせず、自分自身で身を守る行動が生存につながることを説明し、地震や緊急時の避難・行動について、普段から家族で具体的に話しあうことが重要であると述べた。講演の他に、地震体験車による地震体験、非常食の炊き出し訓練などが行われた。

（８）秋田大学「地（知）の拠点整備事業」フォーラム
～「広い低平地における津波対策」における意見交換～

実 施 日　平成 26 年 11 月 23 日（日）
場　　所　潟上市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　61 名

「広い低平地における津波対策に関する研究：潟上市における取り組みについての経過報告」と題して、津波痕跡の調査結果や防災教育の取り組み状況などについて報告した。特に日本海中部地震後は地震の発生がなく防災意識が低下していることやアンケートで東日本大震災を覚えていないと答える小学生がいたことなどから、家庭での防災教育の重要性について提言があった。

（９）「自主防災組織研修」

実 施 日　平成 26 年 11 月 27 日（木）、12 月 19 日（金）
　　平成 27 年　1 月 15 日（木）、1 月 19 日（月）、1 月 20 日（火）
　　1 月 21 日（水）、1 月 22 日（木）、1 月 26 日（月）
　　1 月 27 日（火）、1 月 28 日（水）、1 月 30 日（金）
　　2 月 5 日（木）
場　　所　美郷町、鹿角市、秋田市、にかほ市、男鹿市、藤里町、能代市、
　　大潟村、仙北市、大仙市、八郎潟町、八峰町
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
　　准教授　鎌滝孝信
　　地域防災アドバイザー　野越三雄
参加者数　590 名

県内各市町村の町内会長、自主防災組織の長等を対象とした「平成 26 年度自主防災組織育成指導者研修会（主催：秋田県）」で、水田地域防災部門長、鎌滝准教授、野越地域防災アドバイザーは、地震や津波の基礎的な事項について説明した後、自主防災組織に期待されている役割とともに、自助の大切さ等について説明した。

(10)「ECO ネットワーク秋田」講演

実 施 日　平成 27 年 3 月 7 日（土）
場　　所　潟上市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　地域防災アドバイザー　野越三雄
参加者数　12 名

ECO ネット市民フォーラムが主催する講演会。「秋田の地震環境と地震被害想定について」と題し講演。地球規模の話しから始め、世界、日本、そして潟上市へと順に解説し、潟上市で地震や津波が発生した場合は、液状化現象も伴う恐れがあることなどを説明した。

(11)「水災害の防災に関する講演会」講演

実 施 日　平成 27 年 3 月 28 日（土）
場　　所　潟上市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　50 名

津波、洪水等の水災害からの避難や行政と住民の関わりについて考えてもらうことを目的として開催された講演会。鎌滝准教授は「秋田県沿岸部における過去の津波について」と題し講演。他に弘前大学大学院理工学研究科片岡俊一氏、岩手大学大学院工学研究科松林由里子氏、本学工学資源学研究科渡邉一也講師がそれぞれ講演した。

２）出前講義

（１）「防災教育外部指導者派遣事業」出前授業

＜実施校＞

河辺保育所	7 月 10 日	ウェルビューいずみこども園	10 月 20 日
能代市立第四小学校	7 月 17 日	秋田県立横手高等学校 定時制課程	10 月 29 日
秋田市立仁井田小学校	8 月 28 日	男鹿市立美里小学校	10 月 30 日
秋田市寺内保育所	9 月 11 日	男鹿市立野石小学校	11 月 5 日
秋田県立湯沢翔北高等学校	9 月 25 日	男鹿市立船川南小学校	11 月 13 日
秋田県立六郷高等学校	10 月 1 日	秋田市立明徳小学校	12 月 11 日
秋田県立横手清陵学院 中学校・高等学校	10 月 8 日	秋田市土崎カトリック幼稚園	1 月 29 日
鹿角市立尾去沢小学校	10 月 16 日		

担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
准教授　鎌滝孝信
参加者数　3,041 名

秋田県教育庁が主催する事業。県内の幼保小中高等学校において出前授業、防災訓練指導等を実施し、今後災害が発生した場合においても、正しい知識を持ち避難ができる児童・生徒を育てることを目的とした。

（２）「桂城小学校」出前授業

実 施 日　平成 26 年 5 月 23 日（金）
場　　所　大館市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　272 名

「地震や津波から命を守ろう」をテーマに講義。正しく準備するためには普段からどこに避難すれば良いか、避難する経路に危険箇所はないかなどを保護者と一緒に考え知っておくこと、学校で実施する避難訓練を真剣に行うことなどが考えられると説明し、普段から正しく準備しておくことで地震や津波災害に立ち向かえると述べた。当日は講義に先立ち、地震発生を想定した避難訓練を実施した。

（３）「秋田県沿岸部に位置する小学校等への出前授業」

＜実施校＞

秋田市立下浜小学校	5 月 26 日		秋田県立栗田養護学校	7 月 8 日
秋田市立下浜中学校	5 月 26 日			

担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　352 名

地域防災部門が平成 25 年度から開始した、秋田県の沿岸部に位置する小学校、特別支援学校を対象に、津波への理解、津波発生時の避難行動に重点を置いた防災教育プロジェクト。今後、秋田県沿岸部で津波が発生した際、児童一人一人が考え避難行動をとれるようになることを目的とした。本年度は秋田市内の小学校 1 校、中学校 1 校、特別支援学校 1 校で実施。防災授業では津波の発生メカニズムや避難する際の注意点を具体的に解説し、災害発生時には、誰の指示がなくても速やかに避難行動がとれることや、普段から地域の危険箇所を把握しておくことなどについて述べ、沿岸部に位置する小学校であるために気をつけなくてはならないことを児童、生徒たちに指導した。

（４）「船川第一小学校職員研修」出前授業

実 施 日　平成 26 年 8 月 28 日（木）
場　　所　男鹿市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　20 名

男鹿市周辺で過去に発生した地震災害と今後の学校における対策をテーマとした研修。男鹿市で過去に発生した地震災害について説明し、男鹿市は大きな地震が発生する場所であると考えられることや今後発生すると考えられる地震の形態について解説。授業終了後には「もし、この場で地震が起きたら」と仮定し、教員全員で小学校内を巡回し、学校内の危険箇所の指摘や児童が身を守る場所の把握などについて話し合った。

（５）「大館市防災キャンプ」出前授業

実 施 日　平成 26 年 10 月 17 日（金）、10 月 18 日（土）
場　　所　大館市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
参加者数　60 名

「地震や津波から命を守ろう」をテーマに、防災授業を実施。地震について学び、正しい知識を持つことの必要性について説明した。この防災キャンプでは、水田地域防災部門長の授業のほか、児童による避難所設営、電気が無い場所での歩行行動、救急救命講習などが行われ、自分の身は自分で守る大切さや非常時の実践力の向上などについて児童と地域の方々が一緒になり学んだ。

（６）「地域を知ろう！災害を知ろう！～自分たちの住む町を知るための防災教室～
大住児童館　防災マップ作成」

実 施 日　平成 26 年 10 月 25 日（土）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
　　主　査　利勝利
参加者数　3 名

現在各小学校で行われている防災教育が座学中心であることから、児童が地域、特に小学校や児童館と自宅間の通学路に潜む危険性を知り、地震や津波災害が発生した際には、自らの判断で避難行動を開始し、最も安全な避難経路を通り安全な場所へ避難できるようになることを狙うものである。

今年度は秋田市仁井田小学校の 5 年生 3 名が参加し、仁井田小学校（大住児童館併設）とそれぞれの自宅までの危険箇所を調べ、防災マップを作成。完成した防災マップは他の友達にも活用してほしいと、児童館に遊びに来ていた友達の前で発表し、道路に潜む危険な箇所の説明とともに、安全なルートを自分達で考え避難しようと呼びかけた。

（７）「秋田県内陸部に位置する小学校等への出前授業　千畑小学校」出前授業

実 施 日　平成 26 年 11 月 7 日（金）
場　　所　美郷町
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　240 名

千畑小学校のある美郷町付近で 1896 年に発生した陸羽地震を知り、自分達の住む地域でも過去に多くの被害を出した地震があったことを認識し、地震で生き残るためにはどうしたら良いかを考えるために実施。陸羽地震の被害について説明し「自分達の住む地域でも多くの被害を出した地震が発生している。再び発生すると想定し生き残るために普段から備えて欲しい」と述べた。

（８）「泉中学校」出前授業

実 施 日　平成 26 年 12 月 18 日（木）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　690 名

中学生向けに、災害発生時にどういう行動を起こせば良いかを考え行動するべきかを考えるために実施。積極的な防災・減災に対する姿勢を持つことが重要であること、地震・津波災害以外でも、洪水や台風などの自然災害はいつ自身に降りかかるかもしれない、と説明し日本が自然災害の多い国であることを自覚し対処できるようになって欲しいと述べた。

（９）「ウェルビューいずみこども園」出前授業

実 施 日　平成 27 年 3 月 10 日（火）
場　　所　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信
参加者数　60 名

ウェルビューいずみこども園が主催する避難訓練を視察し、園児および保護者を対象とした講義を実施。日頃から避難訓練を含めた準備をしっかりしておくことが大事であることを説明し、防災は家庭で話題にすることが効果的であり、家庭の防災マップづくりなどを含め家庭で考えて欲しいと述べた。

２．３　県および市町村への防災施策に関する指導・助言

指導助言を行った自治体：７自治体
（秋田県，秋田市，潟上市，横手市，北海道羅臼町，新潟県村山市，富山県小矢部市）

●事業内容

秋田県あるいは県内各自治体における委員会等へ委員として参画し，学術的見地からの指導・助言を行った。

●事業成果と課題

各自治体における防災計画から学校における防災教育推進まで，幅広い見地から指導・助言を行った。また，消防庁主催の事業において市町村災害対応支援アドバイザーとして参画し，県外自治体の災害対応力を醸成することにも寄与できた。

実施講座

１）委員会参画

（１）防災教育推進委員会

実施期間　通年
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

学校における防災教育推進事業の方向性や実施内容を確認・検討することにより実効性のある防災教育を推進するための検討を行った。委員長として参加。

（２）秋田県再生可能エネルギー等導入推進臨時対策事業評価委員会

実施期間　通年
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

秋田県の公共施設や地域の防災拠点について，再生可能エネルギー等の導入を推進するために必要な助言及び検討を行った。

（３）潟上市防災会議委員

実施期間　通年
所　　管　潟上市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

潟上市防災会議に参加し，「潟上市地域防災計画」の検討および文案について助言等を行った。

（４）横手市伝統的建造物群保存地区防災計画策定委員会

実施期間　平成 26 年 7 月～（平成 28 年 7 月）
所　　管　横手市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

横手市増田伝統的建造物群保存地区における保存対策（防災計画策定）調査の実施及びこれに基づく防災計画の策定を推進するために必要な助言及び検討を行った。

（５）秋田市防災会議委員

実施期間　（平成 25 年 6 月）～平成 26 年 6 月
所　　管　秋田市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

秋田市地域防災計画の作成とその実施・推進するために必要な助言および検討を行った。

（６）秋田県幹線道路検討委員会

実 施 日　平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

秋田県の幹線道路について整備の方向性を検討するとともに，整備の実効性確保に必要な助言を行った。

２）自治体等事業参画

（１）地域防災力強化支援事業（避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成指針 WG）

実 施 日　平成 26 年 6 月～平成 27 年 3 月
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦

秋田県避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成基準を作成するために必要な助言および検討を行った。

（２）地域防災力強化支援事業（津波避難計画策定指針 WG）

実 施 日　平成 26 年 6 月～平成 27 年 3 月
所　　管　秋田県
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　准教授　鎌滝孝信

秋田県津波避難計画策定指針に関する WG に参加し，指針案の検討を行った。

（３）市町村災害対応支援アドバイザー

実施期間　平成 26 年 10 月 31 日（金），平成 27 年 1 月 24 日（土），2 月 27 日（金）
所　　管　消防庁
場　　所　北海道羅臼町，新潟県村山市，富山県小矢部市
担　　当　秋田大学地域創生センター地域防災部門　教授・地域防災部門長　水田敏彦
　　准教授　鎌滝孝信
参加者数　のべ 160 名

全国の各市町村職員を対象とした事業（主催：消防庁）。東日本大震災を踏まえ，災害に対する有識者を全国に派遣し，市町村の災害対応力の向上に関する助言，情報提供等を実施し，地域の防災・減災活動を支援することを目的としたもの。各市町村が抱える災害における課題や日頃からの備えについて助言した。

参考資料

平成26年度事業実施状況一覧

		事　業　名	開催時期	会場	対象者，参加者	参加者数	担当部局等	備考
地域協働部門	公開講座	サイコロジカル・カフェ（全7回）	26.6.3（火）　～　7.8（火）	カレッジプラザ	どなたでも	141	教育文化学部 こども発達・特別支援講座 地域社会講座	
		北イングランドの文化 ―マンチェスターを中心に―（全5回）	26.6.19（木）　～　7.17（木）	カレッジプラザ	どなたでも	28	教育文化学部 人間文化講座	
		女性教員とやさしく学ぶ認知症講座 ～対応方法・地域での取り組み・予防についてのヒント～ （全4回）	26.10.1（水）　～　10.22（水）	カレッジプラザ	どなたでも	40	大学院医学系研究科 保健学専攻	
		地球を調べ、資源を考える ―地層の観察から秋田の昔を探る― （全2回）	26.10.11（土）	秋田大学 男鹿半島	どなたでも	22	国際資源学部 資源地球科学コース	
		描かれた女性 ―近代日本画とルネサンス絵画にみる― （全6回）	26.10.30（木）　～　12.4（木）	カレッジプラザ	どなたでも	27	教育文化学部 教育実践講座 人間文化講座	
		シニアのための発声法と歌唱法 ～楽しく元気になれる声の出し方と歌い方～ （全4回）	26.11.30（日）　～　12.21（日）	秋田大学IC	60歳以上の方	24	教育文化学部 教育実践講座	
	横手分校	平成26年度COC事業「聞き書きボランティア」	26.5.25（日）	サンサン横手	どなたでも	27	COC事務局 大学院医学系研究科保健学専攻 地域・老年看護学講座	
		平成26年度　高齢者の健康増進プロジェクト 秋田大学開放講座 （全3回）	26.7.20（日）　～　8.23（土）	横手市交流センターY²ぷらざ	65歳以上の方	22	大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座	
		よこてイーストY²(わいわい)プロジェクト事業 「エコライフフェスタ26」	26.8.2（土）　～　8.3（日）	横手市交流センターY²ぷらざ、よこてイースト	どなたでも	230(2日)、241(3日)	教育文化学部英語・理数教育講座	
		間引きスイカ活用についての勉強会	26.8.5（火）	横手市交流センターY²ぷらざ	どなたでも	15	教育文化学部地域文化学科地域社会講座 産学連携推進機構	
		横手市教育推進委員会　研究主任部会　研修会	26.8.19（火）	横手プラザホテル	教員、教育関係者	28	教育文化学部学校教育課程英語・理数教育講座	
		平成26年度 大学生・高校生教職体験プログラム「教育ミニミニ実習」 （全5回）	26.12.26（金）　～　27.1.8（木）	横手南中学校	秋田大学生，高校生	22		
		秋田大学オフィシャルいぶりがっこ「いぶりばでぃ」づくり	通年	山内三又地区	秋田大学生	10		
	北秋田分校	ふるさとの風景に学ぶ　-米づくりで紡ぐ心と自然-（全10回）	26.4.26（土）　～　26.11.2（日）	北秋田市	秋田大学生		秋田大学生	
		【地域交流事業】田んぼアート　田植え参加	26.5.31（土）	北秋田市	秋田大学生		秋田県北秋田市地域振興局	
		釈迦内サンフラワープロジェクト	26.6.7（土）　～　26.11.1（土）	北秋田市	秋田大学生		秋田大学生	
		第52回阿仁の花火大会と灯篭流し	26.8.16（土）	北秋田市	秋田大学生		秋田大学よさとせ歌舞輝（サークル）	北秋田分校後援
		大館市「ワクワク子ども科学教室」	26.9.21（日）	大館市立有浦小学校	小中学生，保護者		工学資源学研究科	
		北秋田市「おもしろ理科実験教室」	26.10.25（土）	北秋田市立鷹巣中学校	小中学生，保護者		工学資源学研究科	
		2014スノーキャンドルストリート in あに	27.2.21(土)	北秋田市阿仁庁舎前	どなたでも		秋田大学生	
	男鹿なまはげ分校	男鹿市全中学校での学習講演会（全4回）	26.5.23（金）　～　26.5.29（木）	男鹿市内全中学校	中学生	580	男鹿市教育委員会	
		日本体育大学駅伝チーム合宿 ～男鹿駅伝競走大会　第46回大学大会出場～	26.6.26（木）　～　26.6.28（土）	男鹿市	日本体育大学駅伝チーム	13	男鹿市	
		ニコニコ体操塾「健康講座」（全4回），「スローエアロビック講座」	26.7.2（水）　～　26.3.27（金）	男鹿市総合体育館等	クラブ会員ほか		男鹿市ニコニコ元気アップ体操クラブ	
		児童生徒の医学部訪問事業 ～男鹿なまはげ学校～	26.7.30（水）	秋田大学医学部	小中学生	30	男鹿市教育委員会	
		明治大学・大東文化大学レスリング部合宿	26.8.7（木）　～　26.8.14（木）	男鹿市総合体育館	明治大学・大東文化大学レスリング部	48	男鹿市	
		わくわくドキドキ理科実験教室 ～秋田大学の一日出張実験室～	26.8.10（日）	男鹿市立船越小学校	小中学生	50	男鹿市教育委員会	
		地(知)の拠点整備事業 第3回日本聞き書き学校in男鹿	26.8.29（金）　～　26.8.31（日）	男鹿観光ホテル		80	第3回日本聞き書き学校実行委員会，COC事務局	
		教員研修会での客員教授講演	27.2.19（木）	男鹿市民文化会館	小中学校の校長・教頭など	30	客員教授　小野寺清	

平成26年度事業実施状況一覧

		事　業　名	開催時期	会場	対象者，参加者	参加者数	担当部局等	備考
地域協働部門	自治体連携関係	秋田大学と美郷町との連携事業 「秋田大学生による美郷中学校勉強合宿での学習指導」	26.8.19（火）	秋田県立岩城少年自然の家		130		
		秋田大学と東成瀬村との連携協定締結式及び記念講演会	26.9.26（金）	東成瀬村役場，東成瀬中学校		100	客員教授　西木正明	
		秋田大学地域交流朝市	26.10.11（土）	秋田大学	どなたでも			
		秋田大学と美郷町との連携事業 「秋田大学音楽教育研究室学生による特別コンサート」	26.10.25（土）	美郷町公民館ホール	どなたでも	250	教育文化学部 教育実践講座	
		秋田大学と仙北市との連携協定締結式及び記念行事	26.11.26（水）	仙北市役所，仙北市田沢湖総合開発センター				
		4大学連携協力事業「横手市山内三又地区雪中運動会」への参加	27.2.22（日）	旧三又小学校グラウンド，三又コミュニティセンター				
	大学訪問	大学訪問受入	随時受入					34件受入
	地域創生センター主催	酸素を運搬する細胞「赤血球」を科学する	26.5.25（日）	カレッジプラザ	どなたでも	54	工学資源学研究科 医学部附属病院	
		秋田大学子ども見学デー	26.8.8（金）	秋田大学	小学生・保護者		全学	
		メディカル・サイエンスカフェ・ネクストin八峰町 「高齢社会を明るく元気に生きる」	26.8.8（金）	八峰町文化交流センター「ファガス」	どなたでも	75	医学系研究科 教育文化学部 工学資源学研究科	
		メディカル・サイエンスカフェ・ネクストin潟上市 「高齢社会を明るく元気に生きる」	26.9.16（火）	潟上市天王公民館	どなたでも	116	医学系研究科 教育文化学部 工学資源学研究科	
		メディカル・サイエンスカフェ・ネクストin東成瀬村 「高齢社会を明るく元気に生きる」	26.10.31（金）	東成瀬村防災情報センター	どなたでも	42	医学系研究科 教育文化学部	
		レクチャーコンサート「成田為三と山田耕筰の歌曲」	27.2.14（土）	秋田大学60周年記念ホール	どなたでも	150	教育文化学部 教育実践講座	
		特別講演会「理系を目指す君たちへ」	27.3.13（金）	天王中学校				
		美郷町合併10周年記念事業 秋田大学客員教授　若松節朗講演会 「ボク映画監督やってます」-映画には生きるヒントがいっぱい-	27.3.17（火）	美郷町公民館ホール				
	他部局主催（年度計画推進経費による）	秋田大学天文台イベント	26.4.5（土）　～　27.2.21（土）	教育文化学部天文台	小学生・保護者		教育文化学部	
		秋大憩いのコンサート（全12回）	26.4.19(土)　～　27.3.28(土)	秋田大学IC	どなたでも		教育文化学部	
		第1回子どもものづくり教室 ～モデルロケット製作・打上げ体験～	26.4.20（日）	ものづくり創造工学センター	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第2回子どもものづくり教室 ～太陽の光を電気エネルギーに変えて走る車！手作りソーラーカー～	26.5.18（日）	ものづくり創造工学センター	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第3回子どもものづくり教室 ～チームでつくろう！紙飛行機とパスタタワー製作～	26.6.8（日）	秋田市民交流プラザ	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第4回子どもものづくり教室 ～風に向かって走る車！ウィンドカー製作～	26.7.13（日）	ものづくり創造工学センター	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第5回子どもものづくり教室 ～能代宇宙イベントモデルロケット打上体験と宇宙開発の本物見学会～	26.8.17（日）	能代市宇宙広場	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第6回子どもものづくり教室 ～ペットボトルでつくる不思議な噴水の製作～	26.9.21（日）	ものづくり創造工学センター	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第7回子どもものづくり教室 ～ふりふりスティックで電気をおこそう！～	26.10.26（日）	ものづくり創造工学センター	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第8回子どもものづくり教室 ～岩絵の具をつくろう！そして、絵を描いてみよう！～	26.11.9（日）	ものづくり創造工学センター	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第9回子どもものづくり教室 ～身近なもので電池をつくろう！～	26.12.14（日）	ものづくり創造工学センター	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第10回子どものづくり教室 ～3DCADと3Dプリントを体験しよう！～	27.1.25（日）	ものづくり創造工学センター	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		第11回子どものづくり教室 ～ビジュアルプログラミングでゲームを作ろう！～	27.2.15(日)	ものづくり創造工学センター	小・中学生		工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	
		秋田大学総合技術部第6回テクノフェスタ	26.11.29（土）	秋田拠点センターアルヴェ	どなたでも		秋田大学総合技術部	
		NPO法人秋田土壌浄化コンソーシアム主催 子ども科学教室「土の科学」	26.12.26（金）	秋田大学VBL	小学生・保護者		工学資源学研究科 環境応用化学科	
		秋田大学発　福島からの避難者親子の支援プロジェクト					教育文化学部 教科教育課程	
		秋田県内のジオパークおよびジオパーク構想地域活性化のための継続的支援活動					教育文化学部 国際資源学部	
	その他	秋田県赤十字血液センターによる献血事業への協力						
		「秋田大学キャンパスガイドマップ」の作成						

平成26年度事業実施状況一覧

	項目	事業名	開催時期	会場	対象者,参加者	参加人数	担当部局等	備考
地域防災部門	秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究	秋田県の歴史地震に関する研究	通年	秋田県			水田地域防災部門長	
		強震計を用いた地震観測記録	通年	秋田市 （秋田大学）			水田地域防災部門長	
		潟上市・男鹿市・八峰町・にかほ市における地震・津波防災に関する研究	通年	潟上市・男鹿市 八峰町・にかほ市			鎌滝准教授	
		秋田県及び日本海側北部地域における過去の地震・津波痕跡に関する研究	通年	秋田県 日本海側北部			鎌滝准教授	
		秋田県沿岸部及び内陸部に位置する小学校における児童・保護者・教員の意識調査	通年	秋田県沿岸部 ／内陸部			鎌滝准教授	
		秋田県最古の歴史地震830年天長地震の研究	通年	秋田市 由利本荘市			野越地域防災アドバイザー	
		地震伝承（言い伝え）の「聞き書き」手法研究	通年	秋田県沿岸一帯			野越地域防災アドバイザー	
		緊急地震速報の実践的研究	通年	秋田市 （秋田大学）			野越地域防災アドバイザー	
		ボーリングコア試料の解析作業	26.4.4(金) ～ 26.4.7(日) 26.4.25(日) ～ 26.4.28(月) 26.5.31(土) ～ 26.6.2(月) 26.7.4(金) ～ 26.7.6(日) 27.3.13（金）～3.14（土）	埼玉県			鎌滝准教授	
		野外調査	26.4.18(金)	京都府 （同志社大学）			鎌滝准教授	
		地震防災に関する調査・情報収集	26.5.1(木)	横手市			水田地域防災部門長	
		既存ボーリング試料の調査	26.5.15（木）	にかほ市			鎌滝准教授	
		潟上市研究打ち合わせ	26.5.22（木）	潟上市			鎌滝准教授	
		野外調査	26.6.4（水）	潟上市			鎌滝准教授	
		野外調査	26.6.6（金）	潟上市 にかほ市 男鹿市			鎌滝准教授	
		野外調査	26.6.28（土）～26.6.29（日）	山形県			鎌滝准教授	
		潟上市研究・フォーラム打ち合わせ	26.7.7（月）, 26.11.18（火）	潟上市			鎌滝准教授	
		野外調査	26.7.8（火）	にかほ市 潟上市			鎌滝准教授	
		都市計画図の収集および現地調査	26.7.9（水）	横手市			水田地域防災部門長	
		美郷町教育委員会への研究協力依頼，現地調査	26.7.22（火）	美郷町			鎌滝准教授	
		地震防災に関する調査	26.8.1（金）	岩手県			水田地域防災部門長	
		研究のための各種調査	26.8.1（金）～26.8.3（日） 26.11.21（金）～26.11.22（土）	埼玉県			鎌滝准教授	
		野外調査	26.8.18（月）～26.8.20（水）	青森県 岩手県			鎌滝准教授	
		野外調査	26.9.10（水）	潟上市 男鹿市			鎌滝准教授	
		野外調査（フィールドワーク）	26.9.17（水）, 26.9.23（火）	八峰町			鎌滝准教授	
		研究に関する打ち合わせ	26.9.19（金）	男鹿市			鎌滝准教授	
		野外調査（フィールドワーク）	26.9.30（火）	男鹿市 八峰町			鎌滝准教授	
		野外調査（フィールドワーク）	26.10.15（水）～26.10.16（木）	鹿角市 能代市			鎌滝准教授	
		野外調査（フィールドワーク）	26.10.17（金）～26.10.18（土）	大館市			鎌滝准教授	

平成26年度事業実施状況一覧

	項目	事業名	開催時期	会場	対象者,参加者	参加人数	担当部局等	備考
地域防災部門	秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究	住宅の振動調査	26.10.21(火)	横手市			水田地域防災部門長	
		研究に関する打ち合わせ	26.10.23(木)	大館市			鎌滝准教授	
		野外調査(フィールドワーク)	26.10.24(金)	潟上市			鎌滝准教授	
		庄内平野の地盤電動調査	26.11.10(月)～26.11.12(水)	山形県			水田地域防災部門長	
		研究に関する打ち合わせ	26.11.25(火)	潟上市 男鹿市			鎌滝准教授	
		研究に関する打ち合わせ	26.11.26(水)	男鹿市			鎌滝准教授	
		研究に関する打ち合わせ	26.11.27(木)～26.12.1(月)	大阪府 岐阜県			鎌滝准教授	
		研究に関する打ち合わせ	26.12.3(水)	潟上市 男鹿市 八峰町			鎌滝准教授	
		野外調査(フィールドワーク)	26.12.4(木)	男鹿市			鎌滝准教授	
		野外調査(フィールドワーク)	26.12.8(月)	潟上市			鎌滝准教授	
		野外調査(フィールドワーク)	26.12.9(火)	潟上市 男鹿市			鎌滝准教授	
		野外調査(フィールドワーク)	26.12.12(金) 26.12.18(木) 26.12.22(月)	八峰町			鎌滝准教授	
		積雪寒冷地の防災基礎調査	26.12.15(月)～26.12.16(火)	横手市			水田地域防災部門長	
		積雪寒冷地の防災フィールドワーク	27.1.25(日) 27.1.31(土)～27.2.1(日)	横手市			水田地域防災部門長	
		潟上市沿岸域現地調査(フィールドワーク)	27.2.13(金)	潟上市			鎌滝准教授	
		にかほ市沿岸域現地調査(フィールドワーク)	27.2.17(火)	にかほ市			鎌滝准教授	
		横手市冬季防災検証訓練への参加	27.2.22(日)	横手市			水田地域防災部門長	
		原子力機構東京事務所・応用地質株式会社における研究打ち合わせ	27.3.12(木)	東京都			鎌滝准教授	
		【学会・シンポジウム等参加】 日本地球惑星科学連合2014年大会における発表	26.5.2(金)	神奈川県			鎌滝准教授	
		【学会・シンポジウム等参加】 ヨーロッパ地震工学国際会議での発表	26.8.22(金)～26.9.2(火)	トルコ共和国			水田地域防災部門長	
		【学会・シンポジウム等参加】 日本第四紀学会大会への発表	26.9.5(金)～26.9.7(日)	千葉県			鎌滝准教授	
		【学会・シンポジウム等参加】 日本建築学会での発表	26.9.11(木)～26.9.14(日)	兵庫県			水田地域防災部門長	
		【学会・シンポジウム等参加】 日本安全教育学会での発表	26.9.15(月)	宮城県			水田地域防災部門長	
		【学会・シンポジウム等参加】 歴史地震研究会での発表	26.9.19(金)～26.9.23(火)	愛知県			水田地域防災部門長	
		【学会・シンポジウム等参加】 東北地域災害科学研究集会での発表	27.1.9(金)～27.1.10(土)	山形県			水田地域防災部門長	
		【学会・シンポジウム等参加】 東北学院大学工学部における発表	27.3.6(金)～27.3.7(土)	宮城県			鎌滝准教授	
		【学会・シンポジウム等参加】 岩手大学工学部における発表	27.3.7(土)～27.3.8(日)	岩手県			鎌滝准教授	
		【学会・シンポジウム等参加】 防災教育国際フォーラム参加及び被災地調査	27年3月14日(土)～16日(月)	宮城県			水田地域防災部門長	
		【講演会等】 「秋田中央高校SSH」講演	26.4.21(月)	秋田市	秋田中央高等学校全校生徒	240名	水田地域防災部門長	
		【講演会等】 「秋田大学医学部付属病院災害対策研修会」講演	26.4.21(月)	秋田市	病院職員	150名	水田地域防災部門長	

平成26年度事業実施状況一覧

	項目	事業名	開催時期	会場	対象者,参加者	参加人数	担当部局等	備考
地域防災部門	防災について地域で活動できる人材の育成	【講演会等】 「秋田地方気象台」講演	26.7.30（水）	秋田市	気象台職員	25名	水田地域防災部門長	
		【講演会等】 「湯沢西地区・災害から生活を守る会」講演	26.10.5（日）	湯沢市	湯沢市西部地区町内会自主防災組織	50名	水田地域防災部門長	
		【講演会等】 「西和賀町実践防災委員会」講演	26.10.14（火） 27.1.13（火）	岩手県	防災委員会会員	38名	水田地域防災部門長	
		【講演会等】 「秋田市自主防災組織リーダー研修会」講演	26.10.19（日）	秋田市	秋田市内自主防災組織リーダー等	50名	鎌滝准教授	
		【講演会等】 「羽後町避難訓練」講演	26.10.22（水）	羽後町	地域住民・小学生	100名	水田地域防災部門長	
		【講演会等】 「秋田県自主防災組織育成指導者研修会」講演 （美郷町，鹿角市，秋田市，にかほ市，男鹿市，藤里町，能代市，大潟村，仙北市，大仙市，八郎潟町，八峰町）	26.11.27（木），12.19（金）， 27.1.15（木），1.19（月）， 1.20（火），1.21（水）， 1.22（木），1.26（月）， 1.27（火），1.28（水）， 1.30（金），2.5（木）	美郷町，鹿角市，秋田市，にかほ市，男鹿市，藤里町，能代市，大潟村，仙北市，大仙市，八郎潟町，八峰町	各市町村の町内会長，自主防災組織の長等	590名	水田地域防災部門長 鎌滝准教授 野越地域防災アドバイザー	
		【講演会等】 「ECOネットワーク秋田」講演	27.3.7（土）	潟上市	ECO市民ネットワーク参加者	12名	野越地域防災アドバイザー	
		【講演会等】 「水災害の防災に関する講演会」講演	27.3.28（土）	潟上市	地域住民	50名	鎌滝准教授	
		【出前授業】 「防災教育外部指導者派遣事業」出前授業	通年	県内	県内幼･保･小･中･高等学校	3,041名	水田地域防災部門長 鎌滝准教授	
		【出前授業】 「桂城小学校」出前授業	26.5.23（金）	大館市	桂城小学校全校児童	272名	鎌滝准教授	
		【出前授業】 「秋田県沿岸部に位置する小学校等への出前授業」	26.5.26（月）,7.8（火）	下浜小学校， 下浜中学校， 栗田養護学校	各校の児童・生徒	352名	鎌滝准教授	
		【出前授業】 「船川第一小学校職員研修」出前授業	26.8.28（木）	男鹿市	船川第一小学校教職員	20名	鎌滝准教授	
		【出前授業】 「大館市防災キャンプ」出前授業	26.10.17（金）～26.10.18（土）	大館市	城西小学校6年生・保護者・地域住民等	60名	水田地域防災部門長	
		【出前授業】 「大住児童館防災マップ作り」	26.10.25（土）	秋田市	大住小学校5年生	3名	鎌滝准教授 利主査	
		【出前授業】 「秋田県内陸部に位置する小学校等への出前授業」	26.11.7（金）	美郷町	千畑小学校全校児童・教職員	240名	鎌滝准教授	
		【出前授業】 「泉中学校」出前授業	26.12.18（木）	秋田市	泉中学校全校生徒	690名	鎌滝准教授	
		【出前授業】 「ウエルビューいずみこども園防災訓練・防災教室」出前授業	27.3.10（火）	秋田市	ウエルビューいずみこども園園児・保護者	60名	鎌滝准教授	
	県及び市町村への防災施策に関する指導・助言	【委員会参画】 防災教育推進委員会	通年	秋田県			水田地域防災部門長	
		【委員会参画】 秋田県再生可能エネルギー等導入推進臨時対策事業評価委員会委員	通年	秋田県			水田地域防災部門長	
		【委員会参画】 潟上市防災会議委員	通年	潟上市			鎌滝准教授	
		【委員会参画】 横手市伝統的建造物群保存地区防災計画策定委員会	26.7 ～ 28.7	横手市			水田地域防災部門長	
		【委員会参画】 秋田市防災会議委員	（25.6） ～ 26.6	秋田市			水田地域防災部門長	
		【委員会参画】 秋田県幹線道路検討委員会	26.10～27.3	秋田県			水田地域防災部門長	
		【自治体等事業参画】 地域防災力強化支援事業 （避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成指針WG）	26.6～27.3	秋田県			水田地域防災部門長	
		【自治体等事業参画】 地域防災力強化支援事業 （津波避難計画策定指針WG）	26.6～27.3	秋田県			鎌滝准教授	
		【自治体等事業参画】 市町村災害対応支援アドバイザー（消防庁）	26.10.31(金)，27.1.24(土)， 2.27(金)	北海道羅臼町，新潟県村山市，富山県小矢部市	各市町村職員	のべ160名	水田地域防災部門長 鎌滝准教授	

【平成26年度　地域創生センター運営委員】

番号	職　　名		氏　　名	任　　期	備考
1	委員長	理事・副学長 （教育・学生・入試担当）	四反田　素　幸	規程第3条第1号 在任期間	
2	運営委員	地域創生センター長	川　東　雅　樹	規程第3条第2号 在任期間	
3		教育文化学部　教授	篠　原　秀　一	規程第3条第3号 平成25年4月1日～平成27年3月31日	
4		医学系研究科　教授	河　谷　正　仁	規程第3条第3号 平成25年4月1日～平成27年3月31日	
5		工学資源学研究科　教授	神　谷　　修	規程第3条第3号 平成25年4月1日～平成27年3月31日	
6		横手分校長	根　岸　　均	規程第3条第4号 平成25年4月1日～平成27年3月31日	
7		男鹿なまはげ分校長	茂　木　　優	規程第3条第4号 平成26年4月1日～平成28年3月31日	
8		地域創生センター 専任教員 北秋田分校長	濱　田　　純	規程第3条第5号 平成25年4月1日～平成27年3月31日	
9		地域創生センター 専任教員	水　田　敏　彦	規程第3条第5号 平成25年4月1日～平成27年3月31日	
10		地域創生センター 特任教員	鎌　滝　孝　信	規程第3条第5号 平成25年4月1日～平成27年3月31日	

【地域創生課】

職　　名	氏　　名	備　考
地域創生課長	高　橋　紀　夫	
地域協働部門総括主査	澁　谷　隆　男	
地域防災部門主査	利　　勝　利	
地域協働部門主査	村　雲　伸　一	
地域協働部門	京　　直　恵	
地域協働部門	本　多　壮一郎	
地域協働部門	内　田　佳　菜	
地域協働部門	能　美　　徹	
地域防災部門	板　波　ひとみ	

【地域創生センター（COC事務局）】

職　　名	氏　　名	備　考
チーフ地域コーディネーター	田　口　　公　夫	
地域コーディネーター	藤　井　　孝　志	
事務系補佐員	山　影　　あゆみ	

平成26年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成26年度 秋田大学公開講座

サイコロジカル・カフェ

1 定員30名
6月3日（火） カフェ・コラージュ
講 師：学校教育課程 こども発達・特別支援講座
心理学領域担当 高田 知惠子 教授

2 定員30名
6月10日（火） Café アカルイ☆ミライ
講 師：地域文化学科 地域社会講座
心理学領域担当 柴田 健 教授

3 定員10名
6月13日（金） イリュージョン・カフェ
講 師：学校教育課程 こども発達・特別支援講座
心理学領域担当 森 和彦 教授

当日はお飲み物を用意してお待ちしております。

各回ごとにお申込みが必要です。
お好きな回に参加できます。

秋田大学教育文化学部の心理学系教員7名が、オムニバス形式で最新の心理学の知見、研究、実験や技法について実演を交えて紹介します。
こころの不思議や健康について、カフェでおしゃべりする感覚で気軽に楽しく体験学習をしてみましょう。

時 間 18：15～19：45
会 場 カレッジプラザ
（秋田市中通2丁目1-51）

受講料 1回500円
申込締切 6月2日（月）※全回共通

4 定員30名
6月20日（金） Café Mind&Brain
講 師：学校教育課程 こども発達・特別支援講座
心理学領域担当 中野 良樹 准教授

5 定員10名
6月24日（火） Café 夢占い？夢分析？
講 師：地域文化学科 地域社会講座
心理学領域担当 宮野 素子 准教授

6 定員30名
7月 2日（水） Café オレ / Café ワタシ
講 師：地域文化学科 地域社会講座
心理学領域担当 北島 正人 准教授

7 定員20名
7月 8日（火） 脱力☆カフェ～催眠のフシギ～
講 師：学校教育課程 こども発達・特別支援講座
心理学領域担当 清水 貴裕 准教授

※当講座では、個人的なお悩みやご相談には対応しておりません。

お申込み・お問い合わせ
秋田大学 地域創生課 TEL：018-889-2270 FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学 HP：http://www.akita-u.ac.jp

平成26年度秋田大学公開講座

北イングランドの文化 ―マンチェスターを中心に―

「英国」は、「連合王国」と呼ばれるとおりに、イングランド／スコットランド／ウェールズ／北アイルランドという4つの地域の連合体です。しかし、その中心地域であるイングランド内部においても興味深い地域的差異があります。
本講座では、ロンドンを中心とした南部と区別して「北イングランド」と呼ばれるこの地域の特色ある文化を、代表都市の一つであるマンチェスターを中心に紹介し、「地方」の視点から英国文化を捉え直してみたいと思います。

日 程：平成26年6月19日、26日
7月 3日、10日、17日（いずれも木曜日）
時 間：18:15 ～ 19:45
会 場：カレッジプラザ
定 員：30名（6月18日までに要申し込み）
受講料：2,500円（全5回）

担当講師：
教育文化学部人間文化講座
准教授 大西 洋一

お申込み・お問い合わせ
秋田大学 地域創生課 TEL：018-889-2270 FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学 HP：http://www.akita-u.ac.jp

平成26年度 秋田大学公開講座

女性教員とやさしく学ぶ 認知症講座

～対応方法・地域での取り組み・予防についてのヒント～

第1回 10月 1日（水）
認知症になるとはどういうこと？～認知症とは？①～

第2回 10月 8日（水）
認知症になるとはどういうこと？～認知症とは？②～
認知症を正しく理解していただくために、認知症になるとはどういうことなのか、認知症の人との接し方、支え方についてお話しします。
臨床看護学講座 猪股 祥子 助教
地域・老年看護学講座 藤田 智恵 助教

第3回 10月15日（水）
認知症になったらどのように生活していけるの？
～地域で支える認知症～
身近な方が認知症になった場合の地域での取り組みや介護保険など、行政サービスの活用についてお話しします。
地域・老年看護学講座 長岡 真希子 講師

第4回 10月22日（水）
認知症にならないようにするためにどうしたらいいの？
～認知症の予防とリハビリテーション～
自身や身近な方が認知症になった場合のリハビリテーションや、家庭でできる予防について実演を交えてお話しします。
作業療法学講座 津軽谷 恵 助教

時 間 18:00～19:30
会 場 カレッジプラザ（秋田市中通二丁目1-51）
定 員 30名 ※9月30日（火）まで要申込
受講料 2,000円（全4回）
講 師 大学院医学系研究科保健学専攻 女性教員

「自身や身近な人が認知症になったら、どのように生活していけるの？」「認知症にならないようにするためにどうしたらいいの？」といった、認知症になっても地域で安心して生活できるためのヒントを学びます。医学的治療の観点ではなく、認知症がどのような状態かを理解し、対応方法や地域での取り組み、予防やリハビリテーション等について、看護学、リハビリテーション学の女性教員と一緒に学んでみませんか。

※第1・2回目は、「認知症サポーター養成講座」を兼ねます。
認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者です。
両日出席された方には、オレンジリングを差し上げます。

※全回出席が原則ですが、あらかじめ欠席の予定がある場合はお申し込みの際にお知らせください。
※当日の様子を撮影し、秋田ケーブルテレビで放送する可能性があります。
※当講座では、個人的なお悩みやご相談には対応しておりませんのでご了承の上、お申し込みください。

お申込み・お問い合わせ
秋田大学 地域創生課 TEL：018-889-2270 FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学 HP：http://www.akita-u.ac.jp

平成26年度 秋田大学公開講座

地球を調べ、資源を考える

―地層の観察から秋田の昔を探る―

本講座は、地層の観察を通して、地球と資源の関わり合いを考えることを目的とします。男鹿半島は日本列島の形成を知るうえで重要な地層が分布する地域として知られています。実際に野外に出かけて地層を調べることによって日本列島がどのようにしてできたのか、なぜ秋田に地下資源が豊富なのかを学びます。

開催日 平成26年10月11日（土）
時 間 9：00～17：00 雨天決行
場 所 秋田大学国際資源学部棟2階 G217
男鹿半島野外調査フィールド
（バスで移動します）
対 象 どなたでも
定 員 30名
受講料 1,000円
申込締切 平成26年10月3日（金）
日帰りで男鹿半島にでかけて地層を観察します。野外で地層の観察ができるような長袖・長ズボン、運動靴でご参加ください。また、昼食・飲み物等はあらかじめご用意ください。

講 師
国際資源学部 資源地球科学コース
学部長・教 授 佐藤 時幸
准教授 山崎 誠

当日のスケジュール
9：00～10：00 秋田大学国際資源学部棟2階 G217
講義「地球を調べ、資源を考える」
10：00～17：00 男鹿市でのフィールドワーク
（バスで移動します）

お申込み・お問い合わせ
秋田大学 地域創生課 TEL：018-889-2270 FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学 HP：http://www.akita-u.ac.jp

平成26年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成26年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成26年度秋田大学高校生対象公開講演会

酸素を運搬する細胞
「赤血球」を科学する

県内高校生を対象として、大学で学ぶ「生命科学」の面白さを感じてもらう事を目的として開催します。高校生物学で履修し、一般に親しみのある「赤血球」をテーマに、秋田大学の４名の教員が、みなさんを科学の世界に招待します。

開催日：平成26年5月25日（日）
時　間：13：00～16：00
場　所：カレッジプラザ（秋田市中通2丁目1－51）
対　象：県内の高校生
定　員：100名程度（要申込）
申込締切日：平成26年5月23日（金）
参加費：無　料

「生命科学への招待」
大学院工学資源学研究科
生命科学専攻　教授　涌井　秀樹
本講座の概要、講師の紹介、講義の進め方の戦略を説明します。全体を通しての司会も行い、質疑応答が活発にできるように、各講義を円滑に進めます。

「赤血球の形と働き」
大学院工学資源学研究科
生命科学専攻　准教授　布村　渉
成熟赤血球の構造の特徴、特に細胞膜の特徴について、生化学的な解説をします。また、酸素運搬の仕組みについても、分かりやすく説明します。進化生物学的な視点から、ヒトと他の動物種との違いについても言及します。

「赤血球ができる仕組み」
医学部附属病院血液内科　助教　鵜生川　久美
造血幹細胞から成熟赤血球ができる仕組みを、培養細胞の写真などを供覧しながら説明します。また、成熟赤血球に分化する際に核を細胞外に捨てる様子（脱核）を、ビデオ映像で紹介します。

「血液型と性格との関係」
医学部附属病院輸血部　講師　藤島　直仁
血液型を決定する赤血球膜状の分子は何かを含め、輸血に関する一般的な解説をします。また、巷で言われている「血液型と性格との関連性」について、科学的なメスを入れ、その真偽についても説明します。

秋田大学
お申込み・お問い合わせ
地域創生課　TEL：018-889-2270　FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp　秋田大学 HP：http://www.akita-u.ac.jp

---

平成２６年
8月8日（金）
午前９時３０分～正午
午後の科学教室は自由参加
今年はゆったりまる１日楽しめます
参加無料

秋田大学子ども見学デー
～“頭”と“体”でフル体験～

集合場所　秋田大学６０周年記念ホール（手形キャンパス）
対　　象　小学生（保護者と一緒）
人　　数　３００名程度
プログラム　9：00～受付
9：30～10：30　開会式　学長と記念写真
10：30～12：00　希望コース別に大学内を見学・体験
12：00～13：00　昼食タイム　※大学内食堂無料チケット券付き
New　13：00～15：00　おもしろ科学実験教室（自由参加）
空気電池をつくったり、液体窒素でいろいろなものを冷やす実験ができます。

お申込み方法
大学専用フォームより、ご家族単位でお申込みください
郵便はがき、FAX、メールでお申込みの方は、
①～⑤を忘れずにご記入ください
①希望コース ※第３希望まで　②氏名（※保護者、子ども（学校名、学年））
③郵便番号、住所　④電話番号　期　限
⑤大学内駐車場利用希望の有無　7月15日（火）
※予定人数を超えた場合は抽選となります。当選者は７月中旬に案内を発送し発表とします。
※大学内駐車場には限りがございます。希望に添えないこともありますのであらかじめご了承願います。
※お申し込み状況や抽選結果に関してのお問い合わせにはお答えいたしかねます。
※個人情報は、当イベントのみに使用します。

秋田大学
地域創生課　〒010-8502　秋田市手形学園町１番１号　☎:018-889-2270　🖷:018-889-3162
✉:shakoken@jimu.akita-u.ac.jp　秋田大学 HP　http://www.akita-u.ac.jp/　子ども見学デー　サイト内検索

平成 26 年度
メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト
－高齢社会を明るく元気に生きる－

日時：平成 26 年8月8日（金）
１５時００分～１７時１５分（開場１４時３０分）
場所：八峰町文化交流センター「ファガス」
（山本郡八峰町八森字中浜 196 番地 1）
対象：どなたでも（定員：２００名、受講料：無料　要事前参加申込み）
申込：電話、ＦＡＸ、Email でお申込みください（①～③をお知らせください）
①氏名　②年齢　③電話番号

●サイエンスカフェ・マスター●
秋田大学大学院医学系研究科長
教授　伊藤　宏

医学や健康について、秋田大学の教員が、町民、市民の皆様に分かりやすく解説する公開講演会＋自由に意見交換をする場、それが「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」です。
今回は、「高齢社会を明るく元気に生きる」ためのヒントを、看護と心理の両面から考えます。
ご年配の方はもちろん、看護に興味がある方、ご両親やご祖父母に元気に過ごしてほしい方など、幅広い年代からのご参加をお待ちしております。
当日はお飲み物もご用意しておりますので、お気軽にお申し込みください。

● ● 話題提供者 ● ●
秋田大学大学院医学系研究科
保健学専攻　地域・老年看護学講座
教授　中村　順子
『最後まで自分らしく生きる・暮らす
－元気なときも介護が必要になっても－』

秋田大学教育文化学部
地域社会講座
教授　柴田　健
『物語と人生
－ナラティヴセラピーの世界－』

秋田大学大学院工学資源学研究科
情報工学専攻
教授　水戸部　一孝
『交通事故に遭いやすい高齢歩行者
－事故を避けるためにできること－』

お申込み先
八峰町企画財政課
〒018-2502 秋田県山本郡八峰町峰浜目名潟字目長田 118 番地
TEL：0185-76-4603　FAX：0185-76-2113
E-mail：kikaku@town.happou.akita.jp

※当日の様子を撮影し、秋田ケーブルテレビで放送する可能性があります。
（後ろから撮影し、プライバシーには配慮いたしますが、気になるという方は当日スタッフにお声がけください。）

秋田大学
お問い合わせ
地域創生課　〒010-8502　秋田市手形学園町 1-1
TEL：018-889-2270　FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp
共催　秋田大学地域創生センター
八峰町

平成 26 年度
メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト
－高齢社会を明るく元気に生きる－

日時：平成 26 年 9月16日（火）１５時００分～１７時１５分
場所：潟上市天王公民館
対象：どなたでも（受講料：無料　要事前申込）
申込：裏面をご覧ください

●サイエンスカフェ・マスター●
秋田大学長
澤田　賢一

医学や健康について、秋田大学の教員が、市民の皆様に分かりやすく解説する公開講演会+自由に意見交換をする場、それが「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」です。
話題提供者の話を聞き、「高齢社会を明るく元気に生きる」ためのヒントを、みなさんで探っていきます。
ご年配の方はもちろん、看護に興味がある方、ご両親やご祖父母に元気に過ごしてほしい方など、幅広い年代からのご参加をお待ちしております。
当日はお飲み物もご用意しておりますので、お気軽にお申し込みください。

● ● 話題提供者 ● ●
秋田大学医学部保健学科
教授　中村　順子
『最後まで自分らしく生きる・暮らす
－元気なときも介護が必要になっても－』

秋田大学教育文化学部学校教育課程
教授　森　和彦
『注意とは何か？
－注意の解剖学と処方箋について考える－』

秋田大学理工学部システムデザイン工学科
准教授　巖見　武裕
『高齢者の転倒防止のための機器開発
－バランス能力の評価と下肢筋力の向上－』

※当日の様子を撮影し、秋田ケーブルテレビで放送する可能性があります。
（後ろから撮影し、プライバシーには配慮いたしますが、気になるという方は当日スタッフにお声がけください。）

秋田大学
地域創生課　〒010-8502　秋田市手形学園町 1-1
TEL：018-889-2270　FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp
主催　秋田大学地域創生センター
後援　潟上市

平成26年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成26年度 メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

―高齢社会を明るく元気に生きる―

日時：平成26年10月31日（金）
　　14時00分～16時30分（開場13時30分）
場所：東成瀬村防災情報センター301会議室
　　（東成瀬村田子内字仙人下30－1）
対象：どなたでも（定員：50名　参加無料　要事前申込み）
申込：電話またはFAXでお申込み
　　→①氏名　②年齢　③電話番号　をお知らせください。

●サイエンスカフェ・マスター（進行役）●
秋田大学医学部長
教授　伊藤　宏

医学や健康について、秋田大学の教員が、市民の皆様に分かりやすく解説する公開講演会＋自由に意見交換をする場、それが「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」です。
ご年配の方はもちろん、看護に興味がある方、ご両親やご祖父母に元気に過ごしてほしい方など、幅広い年代からのご参加をお待ちしております。
当日はお飲み物もご用意しておりますので、お気軽にお申込みください。

● ● 話題提供者 ● ●

秋田大学医学部保健学科
地域・老年看護学講座
教授　中村　順子
『最後まで自分らしく生きる・暮らす
―元気なときも介護が必要になっても―』

秋田大学医学部保健学科
基礎看護学講座
准教授　佐々木　久長
『心を豊かにするコツ
～もっとおだやかに、よりいきいきと～』

秋田大学教育文化学部
教育実践講座
教授　髙﨑　裕治
『日本の健康増進対策
―国民健康づくり運動と身体活動基準―』

お申込み先
東成瀬村　民生課
〒019-0801 雄勝郡東成瀬村田子内字仙人下 30-1
TEL：0182-47-3405　FAX：0182-47-3360

※当日の様子を撮影し、秋田ケーブルテレビで放送する可能性があります。

（後ろから撮影し、プライバシーには配慮いたしますが、気になるという方は当日スタッフにお声がけください。）

秋田大学
お問い合わせ
地域創生課　〒010-8502　秋田市手形学園町 1-1
TEL：018-889-2270　FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp
共催　秋田大学地域創生センター
　　東成瀬村

レクチャーコンサート

成田為三と山田耕筰の歌曲

市民の皆さんを対象に、レクチャーコンサートを開催します。
声楽を専門とする秋田大学教育文化学部の爲我井壽一准教授が曲目を演奏しながら、歌曲に込められた想いや意図などを解説します。歌唱技術の向上を目的とする方はもちろん、音楽教育に携わる方にとっても参考としていただける内容ですので、皆さんの多数のご参加をお待ちしております。

平成27年 2月14日（土）
14：00～15：30（13：30 開場）
会　場　秋田大学60周年記念ホール
定　員　先着250名　※直接会場にお越しください。

参加無料
申込不要

講　師　秋田大学教育文化学部教育実践講座
　　爲我井　壽一 准教授（演奏、解説）
ピアノ　会田　道孝

秋田大学インフォメーションセンターでは、成田為三が秋田県師範学校（秋田大学教育文化学部の前身）に在学していた時代の貴重な資料を展示しています。
当日は特別開館いたしますので、是非ご覧ください。（開館時間 13:00～16:30）

■プログラム

【成田為三の歌曲】	【山田耕筰の歌曲】
浜辺の歌	からたちの花（ピアノ演奏）
安房にて	鐘がなります
望郷の歌	この道
木の洞	木の洞
秋田県民歌	赤とんぼ

秋田大学
お問い合わせ
地域創生課　TEL：018-889-2270　FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp　秋田大学 HP：http://www.akita-u.ac.jp

---

今，理系人材の育成は，「ものづくり」あるいはグローバル社会の中で日本が勝ち残るための観点から喫緊の課題である。
医学者である澤田学長と，理化学研究所理事長・東大副学長，そして秋田県立大学長を歴任した物理学者である小林俊一先生が，理系を目指す中学生を対象とした対談や講演を行うことにより，子どもたちを理科や科学へと誘う契機とする。

秋田大学 特別講演会

「理系を目指す君たちへ」

日　時　平成27年3月13日（金）
　　午後1時20分～午後3時

会　場　潟上市立天王中学校（潟上市天王字宮の後3番地）

プログラム
1. 開会挨拶
2. 対　談
　・前 理化学研究所理事長
　　前 秋田県立大学長　小林 俊一
　・秋田大学長　澤田 賢一
　・コーディネーター
　　秋田大学医学部保健学科教授　中村 順子
3. 講　演
　「理系を目指す君たちへ」　小林 俊一
4. 質疑応答
5. 閉　会

【講師紹介】
小林　俊一 氏
（前 理化学研究所理事長
前 秋田県立大学長）

【略歴】
大阪大学理学部物理学科卒業（1962）
大阪大学基礎工学部助手
東京大学理学部助手，講師，助教授
〃　教授（1985）
〃　理学部長
東京大学副学長
理化学研究所理事長（1988.8 ～ 2003.9）
秋田県立大学長（2006.4 ～ 2011.3）
主な研究分野：低温物理学

秋田大学　お問い合わせ　地域創生課
〒010-8502　秋田市手形学園町 1 番 1 号
TEL：018-889-2844　FAX：018-889-3162　E-mail：bousai-s@jimu.akita-u.ac.jp
秋田大学 HP http://www.akita-u.ac.jp/

美郷町合併10周年記念事業
秋田大学客員教授 若松節朗 講演会

「ボク映画監督やってます」
－映画には生きるヒントがいっぱい！－

講 師　秋田大学客員教授
　　映画監督　若松 節朗 氏
　　（日本アカデミー賞優秀監督賞受賞，秋田市出身）

平成27年 3月 17日（火）
時　間　13：30～15：30（開場13：00）
会　場　美郷町公民館 ホール
入場無料 ※入場整理券が必要です

講師プロフィール
1949 年生まれ　秋田県秋田市（旧河辺町）出身
秋田市立秋田商業高等学校卒業
日本大学藝術学部放送学科卒業

映画監督
株式会社共同テレビジョン役員待遇エグゼクティブディレクター

第 24 回（2000 年）日本アカデミー賞　優秀監督賞受賞（ホワイトアウト）
第 33 回（2009 年）日本アカデミー賞　優秀監督賞受賞（沈まぬ太陽）

入場整理券配布場所
配 布 日：平成２７年２月１６日（月）～　※無くなり次第終了
配布場所：美郷町役場，美郷町公民館，美郷町学友館，
　　美郷町観光情報センター，道の駅雁の里せんなん

【お問い合わせ】美郷町 企画財政課　TEL：0187（84）4901　FAX：0187（85）3102

主催　美郷町　秋田大学地域創生センター

巻末に当たり、平成 26 年度の社会貢献事業に御協力いただきました県内自治体、関係機関及び本学内教職員の皆様には心から感謝申し上げます。

今後とも引き続き本学の社会貢献活動にお力添えくださいますようよろしくお願い申し上げます。

Akita University

平成26年度　秋田大学地域創生センター年報

秋田大学地域創生センター　編集・発行

平成27年12月

〒010-8502　秋田県秋田市手形学園町1番1号
TEL：018-889-2270
FAX：018-889-3162
E-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp